

6 病害虫関係資料

(1) 令和4年度発表の病害虫発生予察注意報等

ア 注意報（第1号、第2号、第3号、第4号、第5号）



令和4年度病害虫発生予察注意報第1号



令和4年7月11日

埼玉県病害虫防除所

6月中旬に県内ネギほ場を調査したところ、さび病の発生量は直近10年で最も多い結果となりました。その後、早い梅雨明けと連日の高温により発生は大きく抑制されましたが、夏以降の気温低下に伴って再び多発することが懸念されます。

発生が見られているほ場では、今のうちに防除を行って越夏する病原菌を減らしましょう。

また、夏以降気温が低下し始めたらほ場をよく観察し、早期発見・早期防除を徹底しましょう！

作物名 ネギ

病害虫名 さび病

1 注意報の内容

(1) 発生地域 県内全地域

(2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

(1) 県内ネギほ場を巡回調査した結果、さび病の発生量が平年を大きく超えており、直近10年で最も多かった（発生ほ場率100%）。

(2) 6月21日に気象庁が発表した関東甲信越地方の3か月予報（7～9月）によると気温は平年より高く、高温により越夏出来ない胞子が増える見込みである。しかし、6月中旬の発生量が非常に多いため、越夏する胞子量は平年より多いと見込まれる。

(3) 越夏する胞子量が多くなった場合、9月以降の気温低下と降水量の増加により、多発が懸念される。



写真 さび病が発生したネギ葉（左・中央：本ぼ 右：苗）（R4.6撮影）

3 防除対策

- (1) 発生が見られたら、本病に登録があり治療効果のある薬剤で防除する。
- (2) 夏以降、気温 25℃以下・多湿条件となると発病しやすくなるので、予防的に防除を行う。
- (3) 葉の窒素含量が多いほど発病しやすくなるので、過剰な追肥とならないよう施肥量に注意する。
- (4) 発病ネギは感染源とならないよう、早めに収穫し発病葉をほ場に残さない。
- (5) 出荷調整時に出た残渣中の発病葉は、土に埋めるなど適切に処分する。

表 さび病の防除薬剤例

薬剤名	FRACコード	使用時期	使用方法	使用回数
ヨネポン水和剤	M01	収穫 7 日前まで	散布	4 回以内
ダコニール 1000	M05	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内
ジマンダイセン水和剤	M03	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内
オンリーワンフロアブル	3	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内
ベルコート水和剤	M07	収穫 30 日前まで	散布	3 回以内
パレード 20 フロアブル	7	収穫前日まで	散布	3 回以内
アミスター 20 フロアブル	11	収穫 3 日前まで	散布	4 回以内
ユニフォーム粒剤	4、11	土寄せ時、但し収穫 45 日前まで	株元土壌混和	1 回
カーニバル水和剤	M05、40	収穫 14 日前まで	散布	3 回以内

(使用基準は令和 4 年 6 月 22 日現在)

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ (令和 4 年 5 月 1 日～8 月 31 日)

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の度に確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬散布は暑い時期を避け、熱中症にならないよう注意する。
- 6 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/a0907/index.html>



コバトン



令和4年度病虫害発生予察注意報第2号

令和4年7月27日
埼玉県病虫害防除所

県内のオオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数が、発生当初から平年より多い傾向が続いており、これまでにナス、スイートコーンなどのほ場で幼虫の食害が確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として50種類近い作物を加害しますが、埼玉県で被害が懸念される作物は、トマト、ナス、ブロッコリー、レタス、スイートコーン、キク、ガーベラ、宿根アスターなどです。

幼虫は卵からふ化すると直ちに植物の内部へ食入しますので、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 野菜類、花き類
病虫害名 オオタバコガ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病虫害防除所が設置したオオタバコガのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、4か所すべて（深谷市、杉戸町、本庄市、越谷市）で多い傾向が続いており、平年の2.5倍以上の地点も確認されている（深谷市：図1、本庄市：図2）。
- (2) 7月21日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 露地ナスほ場、スイートコーンほ場で幼虫の食害が確認されており、今後、被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 新しい食害痕や虫糞を見つけたら、その周辺に幼虫がいる可能性が高いので、発見しだい捕殺する。
- (2) 摘芯した腋芽や花蕾などには卵や若齢幼虫が見られるので、株元などに放置せず、ほ場外で処分する。
- (3) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等（5mm目程度の防虫ネット）を張って、成虫の侵入を防ぐ。
- (4) 幼虫が作物内に食入してしまうと薬剤効果が低下するので、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (5) 老齢幼虫に対しては薬剤効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける。（表1、表2）

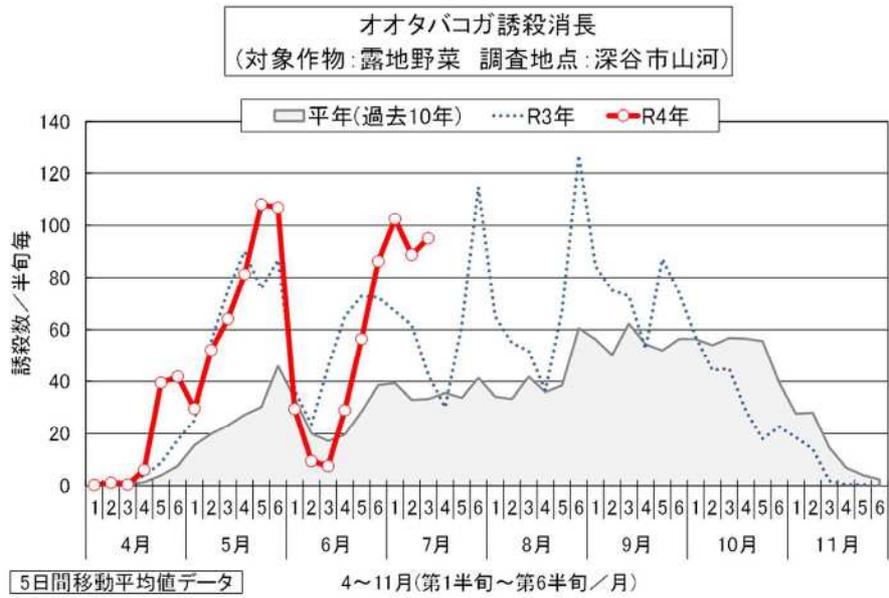


図1 オオタバコガ誘殺消長 (対象作物：露地野菜 調査地点：深谷市山河)



図2 オオタバコガ誘殺消長 (対象作物：露地ナス 調査地点：越谷市中島)



写真1 オオタバコガ幼虫による葉の被害



写真2 オオタバコガ幼虫による果実の侵入痕

表1 ナスのオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
スピノエース顆粒水和剤	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫前日まで	2回以内
カスケード乳剤	1 5	収穫前日まで	4回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫前日まで	2回以内
フェニックス顆粒水和剤	2 8	収穫前日まで	3回以内
プレバソンフロアブル5	2 8	収穫前日まで	2回以内
グレーシア乳剤	3 0	収穫前日まで	2回以内
プレオフロアブル	UN	収穫前日まで	4回以内

(使用基準は令和4年7月21日現在)

表2 ブロッコリーのオオタバコガの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫3日前まで	3回以内
グレーシア乳剤	3 0	収穫7日前まで	2回以内

(使用基準は令和4年7月21日現在)

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html>

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ (令和4年5月1日～8月31日)

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661



コバトン



彩の国
埼玉県

令和4年度病害虫発生予察注意報第3号

令和4年7月27日
埼玉県病害虫防除所

県内のシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多く、特に7月以降に急増し、ネギほ場では幼虫の食害が確認されています。
本虫は野菜、花きを中心として60種類以上の作物を加害します。
ネギでは、ふ化幼虫が集団で葉の先端や折れた部分から葉身内へ食入してしまうと、薬剤効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

作物名 ネギ

病害虫名 シロイチモジヨトウ

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病害虫防除所が設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、3か所すべて（深谷市、越谷市、杉戸町）で多い傾向が続いており、平年の2倍を超える地点も確認されている（深谷市：図1、越谷市：図2）。
- (2) 7月21日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) ネギほ場で幼虫の食害が確認されており、今後、被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵塊やふ化直後の1～2齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- (2) 幼虫が作物内に食入してしまうと薬剤効果が低下するので、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける。（表）

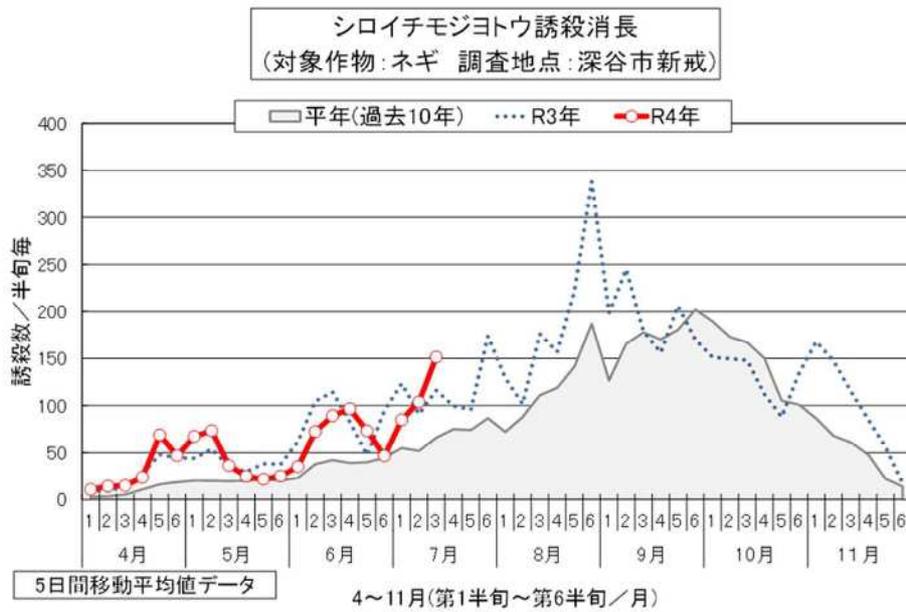


図1 シロイチモジヨトウ誘殺消長 (対象作物：ネギ 調査地点：深谷市新戒)

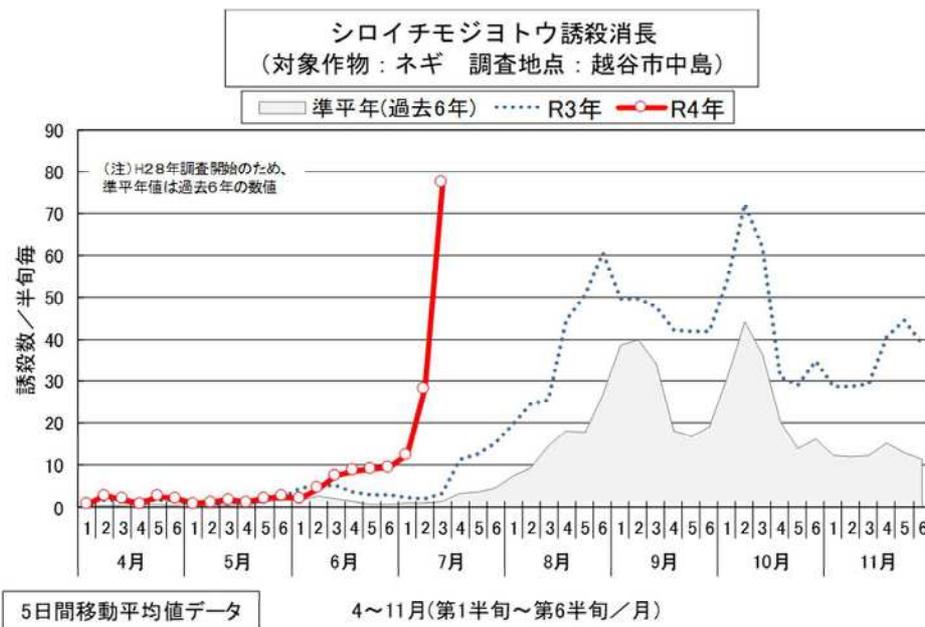


図2 シロイチモジヨトウ誘殺消長 (対象作物：ネギ 調査地点：越谷市中島)



写真1 シロイチモジヨトウ若齢幼虫 (体長約2mm)



写真2 シロイチモジヨトウによる被害葉

表 ネギのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アディオン乳剤	3 A	収穫7日前まで	3回以内
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫7日前まで	3回以内
カスケード乳剤	1 5	収穫14日前まで	3回以内
ロムダンフロアブル	1 8	収穫7日前まで	3回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫14日前まで	2回以内
ミネクトデュオ粒剤	4 A、2 8	収穫3日前まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	2 8	収穫3日前まで	3回以内
ベネビアOD	2 8	収穫前日まで	3回以内
グレーシア乳剤	3 0	収穫7日前まで	2回以内
プレオフロアブル	UN	収穫3日前まで	4回以内

(使用基準は令和4年7月21日現在)

＜農薬使用上の注意事項＞

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html>

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中！ (令和4年5月1日～8月31日)

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661



コバトン



彩の国
埼玉県

令和4年度病虫害発生予察注意報第4号

令和4年9月8日
埼玉県病虫害防除所

作物名 野菜類、花き類、ダイズ
病虫害名 オオタバコガ

県内のオオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多く、令和4年7月27日に注意報第2号を発表しましたが、その後も多い傾向が続いています。ダイズなどにも被害が広がっており、現在栽培中の作物だけでなく、これから栽培が始まる作物への被害も懸念されます。

本虫は野菜、花きを中心として50種類近い作物を加害しますが、埼玉県で被害が懸念される作物は、トマト、ナス、ブロッコリー、レタス、スイートコーン、キク、ガーベラ、宿根アスターなどです。

幼虫は卵からふ化すると直ちに植物の内部へ食入しますので、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病虫害防除所が設置したオオタバコガのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、4か所すべて（深谷市、杉戸町、本庄市、越谷市）で多い傾向が続いている（図1～4）。
- (2) 9月1日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。
- (3) 露地ナスほ場、ダイズほ場で幼虫の食害が確認されており、今後、被害拡大が懸念される。

3 防除対策等

- (1) 新しい食害痕や虫糞を見つけたら、その周辺に幼虫がいる可能性が高いので、発見しだい捕殺する。
- (2) 摘芯した腋芽や花蕾などには卵や若齢幼虫が見られるので、株元などに放置せず、ほ場外で処分する。
- (3) 施設栽培では、開口部に寒冷紗等（5mm目程度の防虫ネット）を張って、成虫の侵入を防ぐ。
- (4) 幼虫が作物内に食入してしまうと薬剤効果が低下するので、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (5) 老齢幼虫に対しては薬剤効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける（表1～4）。

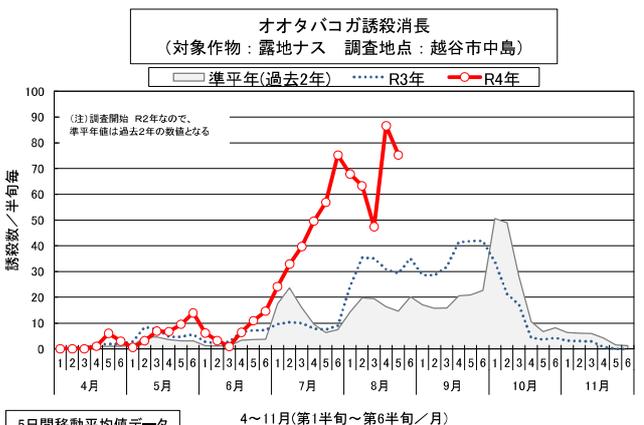
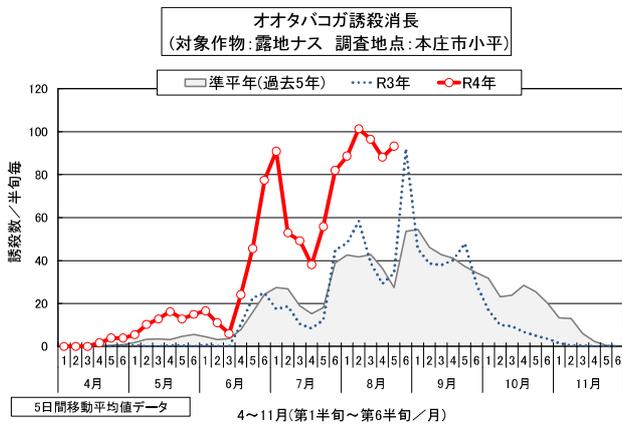
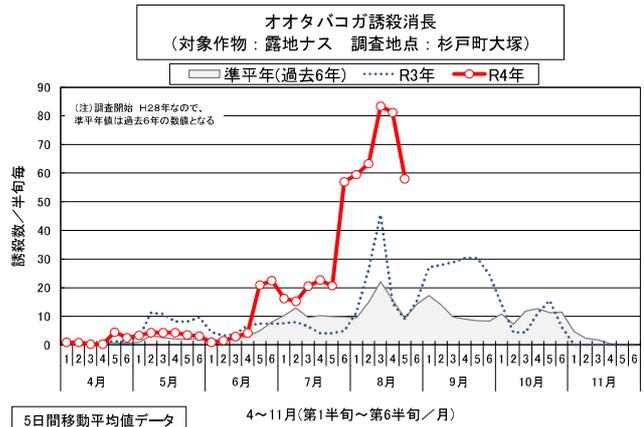
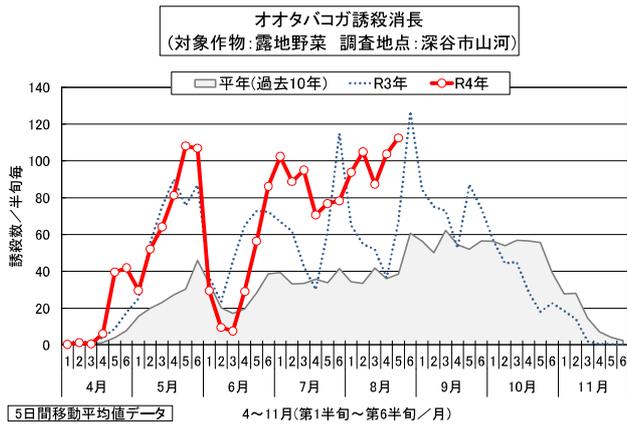


図 各調査地点のオオタバコガ誘殺消長



写真1 幼虫による葉の食害(ナス)



写真2 幼虫による果実の侵入痕(ナス)



写真3 幼虫による葉の食害(ダイズ)



写真4 幼虫による葉の食害(ブロッコリー)

表1 ナスのオオタバコガの防除薬剤例

薬剤名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
スピノエース顆粒水和剤	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫前日まで	2回以内
カスケード乳剤	1 5	収穫前日まで	4回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫前日まで	2回以内
プレバソンフロアブル5	2 8	収穫前日まで	2回以内
グレースシア乳剤	3 0	収穫前日まで	2回以内
プレオフロアブル	UN	収穫前日まで	4回以内

(使用基準は令和4年9月1日現在)

表2 ブロッコリーのオオタバコガの防除薬剤例

薬剤名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫3日前まで	3回以内
グレースシア乳剤	3 0	収穫7日前まで	2回以内

(使用基準は令和4年9月1日現在)

表3 トマトのオオタバコガの防除薬剤例

薬剤名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
スピノエース顆粒水和剤	5	収穫前日まで	2回以内
アフーム乳剤	6	収穫前日まで	5回以内
カスケード乳剤	1 5	収穫前日まで	4回以内
トルネードエースDF	2 2 A	収穫前日まで	2回以内
ベネビアOD	2 8	収穫前日まで	3回以内
グレースシア乳剤	3 0	収穫前日まで	2回以内
プレオフロアブル	UN	収穫前日まで	2回以内

(使用基準は令和4年9月1日現在)

表4 ダイズのオオタバコガの防除薬剤例

薬剤名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アタブロン乳剤	1 5	収穫14日前まで	2回以内
プレバソンフロアブル5	2 8	収穫7日前まで	2回以内
グレースシア乳剤	3 0	収穫14日前まで	2回以内
プレオフロアブル	UN	収穫7日前まで	2回以内

(使用基準は令和4年9月1日現在)

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。
http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintouroku_iouhou.html

4 問合せ先 埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661



コバトン



彩の国
埼玉県

令和4年度病害虫発生予察注意報第5号

令和4年9月22日
埼玉県病害虫防除所

作物名 ネギ・ブロッコリー

病害虫名 シロイチモジヨトウ

県内のシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数が平年より多く、7月27日に注意報第3号を発表しましたが、その後も多い傾向が続いています。ネギほ場での被害が増加しており、ブロッコリー等での被害も確認されています。

本虫は野菜、花きを中心として60種類以上の作物を加害します。

ネギでは、ふ化幼虫が集団で葉の先端や折れた部分から葉身内へ食入してしまうと、薬剤効果が低下するため、被害を確認したら直ちに防除を実施しましょう。

1 注意報の内容

- (1) 発生地域 県内全地域
- (2) 発生程度 多

2 注意報発表の根拠

- (1) 病害虫防除所が設置したシロイチモジヨトウのフェロモントラップへの雄成虫誘殺数が、3か所すべて（深谷市、越谷市、杉戸町）で多い傾向が続いている（図）。
- (2) 9月15日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) 9月中旬にネギほ場（5か所）を調査したところ、寄生株率が平均34.4%（昨年同時期は平均0.8%）と被害が増加している。また、定植間もないほ場では今後の生育に大きく影響することが懸念される。

3 防除対策等

- (1) 早期発見に努め、卵塊やふ化直後の1～2齢幼虫の集団を見つけたら速やかに取り除き、ほ場外で適切に処分する。
- (2) 幼虫が作物内に食入してしまうと薬剤効果が低下するので、被害を確認したら直ちに防除を実施する。
- (3) 老齢幼虫に対しては薬剤効果が低下するため、薬剤散布は若齢幼虫のうちに実施する。また、同一系統の薬剤の連用は避ける。（表1、2）

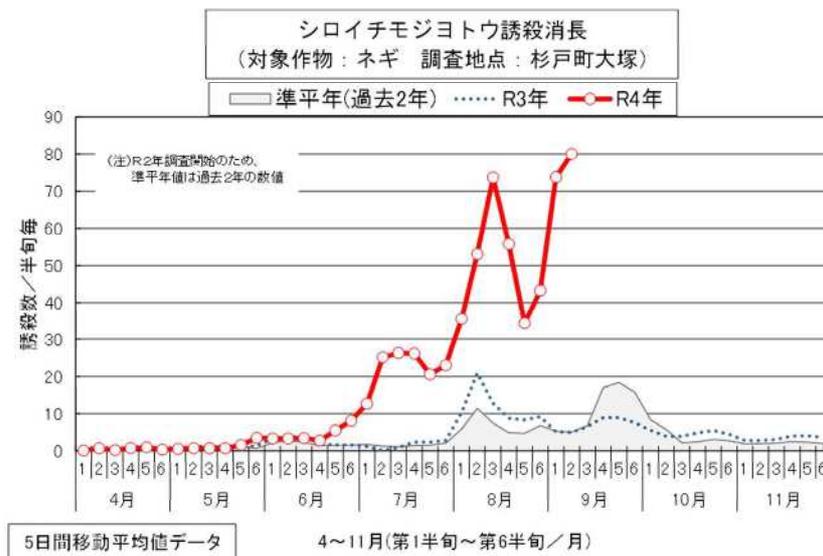


図 シロイチモジヨトウ誘殺消長 (上:深谷市新戒 中:越谷市中島 下:杉戸町大塚)



写真1 シロイチモジヨトウ若齢幼虫
(体長約2mm)



写真2 ネギの被害葉



写真3 ブロッコリーの被害葉と幼虫

表1 ネギのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アディオン乳剤	3 A	収穫7日前まで	3回以内
ディアナSC	5	収穫前日まで	2回以内
アフームエクセラ顆粒水和剤	6、15	収穫7日前まで	3回以内
カスケード乳剤	15	収穫14日前まで	3回以内
ロムダンフロアブル	18	収穫7日前まで	3回以内
トルネードエースDF	22A	収穫14日前まで	2回以内
ミネクトデュオ粒剤	4A、28	収穫3日前まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	収穫3日前まで	3回以内
グレーシア乳剤	30	収穫7日前まで	2回以内
プレオフロアブル	UN	収穫3日前まで	4回以内

(使用基準は令和4年9月20日現在)

表2 ブロッコリーのシロイチモジヨトウの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使用時期	使用 回数
アフームエクセラ顆粒水和剤	6、15	収穫7日前まで	3回以内
ヨーバルフロアブル	28	収穫前日まで	3回以内
プレオフロアブル	UN	収穫7日前まで	2回以内

(使用基準は令和4年9月20日現在)

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 4 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。
- 5 農薬の最新情報は、埼玉県農産物安全課ホームページをご覧ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nouann/saishintourokujouhou.html>

4 問合せ先

埼玉県病害虫防除所 電話：048-539-0661

令和4年度 発生予察情報	特殊報第1号	令和4年10月21日 埼玉県病害虫防除所 (TEL:048-539-0661)
-----------------	---------------	---

タバコノミハムシの発生について

県東部のナスほ場においてハムシ科甲虫による葉の食害が確認され、加害虫を同定の結果、タバコノミハムシであることが判明した。

* 特殊報：新規の有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 害虫名 タバコノミハムシ *Epitrix hirtipennis* (Melsheimer)

2 対象作物 ナス

3 発生経過

(1) 令和4年9月下旬に、県東部のナスほ場において、食害された葉とともにハムシ科甲虫が20頭以上確認された。一部の個体を採取し横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、タバコノミハムシであることが判明した。

(2) 本種は北アメリカおよび中央アメリカに分布するとされるたばこの害虫である。国内では、平成23年に群馬県で初めて確認され、以降計25府県で発生が確認されている。

4 本種の特徴及び生態

(1) 成虫はやや扁平な長楕円形で、体長は1.5～2.5mm。体色はやや光沢のある赤褐色で、上翅には不明瞭な黒斑がある。後腿節は顕著に肥大している（写真1）。

(2) 卵は地表に産みつけられ、孵化した幼虫は地中で根を加害した後、地表部近くで蛹化する。成虫は落葉下などで越冬する。

(3) 成虫は葉の片側の表皮を残して葉肉を食害したり、葉を貫通して食害したりする。直径1mm～2mm程度の多数の小さな円形の穴を空ける（写真2～4）。本種はナスを始め、トマト、ばれいしょ、ほおずき、雑草のワルナスビで発生が確認されている。



写真1 タバコノミハムシ成虫



写真2 ナスの葉における食害痕

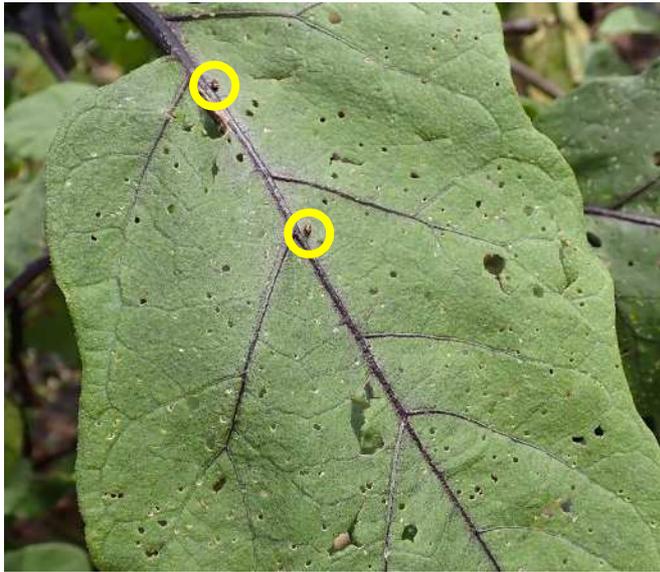


写真3 ナス被害葉とタバコノミハムシ成虫



写真4 ナスの葉における食害痕（裏側）

5 防除対策

(1) 令和4年9月現在、ナスにおいての本虫に対する登録農薬はない。

なお、本虫は主に減農薬、農薬不使用栽培のほ場で発生が確認されており、通常の薬剤防除を実施しているほ場での被害はほとんど確認されていない。

(2) 近隣のナス科植物への移動を防ぐため、本種に加害された作物は、栽培終了後速やかに残さを処分する。



病虫害防除情報

令和4年7月12日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 なしの果樹カメムシ類について

2 情報内容

果樹を加害するカメムシ類は、主にチャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシおよびアオクサカメムシの4種です。これら果樹カメムシ類の予察灯への誘殺数が6月の第4半旬から急増しており、多いところでは6月末時点で平年の約1.1倍となりました。

果樹カメムシ類は、口吻を果実に挿入して吸汁します。被害を受けた果実は、吸汁痕が残り、表皮が凸凹になるなど商品価値がなくなります。

向こう1か月の気象予報では、気温は平年より高い見込みであることから、今後、果樹カメムシ類の活動がさらに活発になることが予想されます。また、新世代虫の発生に伴い、果樹園への飛来が増加するため、今後の被害拡大が懸念されます。

対策のポイントを参考に、果樹園の状況に応じた防除を実施しましょう。

(1) 生態と被害

ナシを加害するカメムシは数種類いますが、県内の予察灯への飛来はチャバネアオカメムシが最も多く、次いでクサギカメムシが多く誘殺されます。

ア チャバネアオカメムシ

体長10～12mmで光沢のある緑色で、前翅は紫がかった茶色をしています（図1）。広食性で、4月から夏にかけてはクワ、サクラ、ヒイラギ、キリなどに、夏以降はヒノキ、スギ、キリなどに寄生します。4月からナシや多くの果樹を加害しますが、いずれの樹種でも繁殖しません。



図1 チャバネアオカメムシ成虫

イ クサギカメムシ

体長13～18mmとやや大型で、暗褐色の地に、不規則な黄褐色の斑紋があります（図2）。広食性で、4月以降にマツ、スギ、サクラ、ケヤキなどに集中して飛来し、その後は好適な餌となる植物へ分散し、寄生します。ナシや多くの果樹を加害しますが、いずれの樹種でも繁殖しません。



図2 クサギカメムシ成虫

ウ 被害（果樹カメムシ類共通）

果樹園に飛来し、果実を吸汁します。加害を受けると、吸汁部がへこんで奇形果になります。収穫直前の被害では、くぼみの程度は軽くなりますが、吸汁部周辺の果肉は白くスポンジ状となり、商品価値が低下します（図3）。



図3 被害を受けた果実

(2) 気象要因等について

6月の平均気温は平年より高く（+1.1℃、熊谷）、7月7日に気象庁が発表した季節予報によれば、関東甲信地方の向こう1か月の平均気温は、平年より高い確率60%、降水量はほぼ平年並です。

(3) 対策のポイント

ア 多目的防災網を展張できる園では、早く設置しましょう。

イ 多目的防災網の設置を行っていない果樹園では、飛来を確認したら、表を参考に追加で薬剤防除を行いましょう。その際、収穫前日数や使用回数に注意しましょう。

ウ 過剰な農薬散布は天敵の減少により、ハダニ類の増加につながります。被害が確認されていない園では、通常通りの防除を行いましょう。

エ ピレスロイド系薬剤（IRACコード：3A）は果樹カメムシ類への効果は高いですが、天敵類への影響が大きく、ハダニ類の増加につながる恐れがあるため、なるべく連用を避けましょう。

表1 果樹カメムシ類の防除薬剤例（使用基準は令和4年7月11日現在）

薬剤名	IRACコード	使用時期	使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	4A	収穫前日まで	3回以内
ダントツ水溶剤	4A	収穫前日まで	3回以内
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤	4A	収穫前日まで	3回以内
アクタラ顆粒水溶剤	4A	収穫前日まで	3回以内
アーデントフロアブル	3A	収穫前日まで	3回以内
テルスター水和剤	3A	収穫前日まで	2回以内
アディオン乳剤	3A	収穫前日まで	2回以内
キックオフ顆粒水和剤	28、4A	収穫前日まで	3回以内

3 IRACコード及びFRACコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/lab0/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍数は使用の都度、確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 6 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661



コバトン

病虫害防除情報



令和4年7月28日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 稲の斑点米カメムシ類について

2 情報内容

(1) 稲の斑点米カメムシ類

稲の出穂後20日頃まで籾を吸汁し、斑点米を発生させるカメムシ類を総称して斑点米カメムシ類といいます。本県では53種確認されていますが、平坦地では比較的小型のアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、中山間地では比較的大型のクモヘリカメムシが主要な種となります。大型種のカメムシは吸汁害が大きくなる傾向があります。



アカヒゲホソミドリカスミカメ成虫(体長約6mm)



アカヒゲホソミドリカスミカメによる被害粒



クモヘリカメムシ成虫(体長約16mm)



クモヘリカメムシによる被害粒

参照：病虫害診断のポイントと防除対策 「斑点米カメムシ類」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

(2) 畦畔・雑草地発生調査結果

病虫害防除所では、毎年7月中旬に畦畔・雑草地を対象とした水稻の斑点米カメムシ類の発生状況を調査しており、令和4年7月26日にその結果を発表したとこ

ろです。本年は、1 地点当たりの平均頭数は 25.8 頭(平年 20.2 頭)で平年並ですが、直近 5 年平均(12.2 頭) より 2 倍以上多くなっています。また調査地点によるばらつきが大きく、70 頭を超える調査地点が 17 地点中 3 地点あるなど、ほ場周辺の雑草管理の状況によっては被害が懸念されます。

本年確認された種は、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、マルシラホシカメムシ、ヒゲナガカメムシ、ブチヒゲカメムシで、小型種のアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメが 95%を占めます。しかし、県東部で大型種のホソハリカメムシが確認された(3%)ほか、予察灯にもミナミアオカメムシ、イネカメムシなどの大型種が誘殺されているので、これらが本田に侵入すると平坦地でも被害が大きくなる可能性があります。



アカスジカスミカメ成虫(体長約 5mm)



ホソハリカメムシ成虫(体長約 10mm)



ミナミアオカメムシ成虫(体長約 14mm)



イネカメムシ成虫(体長約 12mm)

参照：病虫害診断のポイントと防除対策 「ミナミアオカメムシ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

水稻の斑点米カメムシ類の畦畔・雑草地発生調査結果(令和4年7月26日)

https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/bojo/hantenmai_chosa.html

(3) 防除対策

稲の出穂前後に畦畔や周辺の除草を行うと、本害虫を水田に追い込んでしまいます。出穂前2週間と出穂後2週間は除草を行わないようにしてください。

本害虫の多発生が認められた場合、速やかに薬剤防除を行いましょ。なお、農薬の散布は、蜜蜂の活動が最も盛んな時間帯(午前8時~12時まで)を避ける

など、被害の軽減に努めてください。

表 稲のカメムシ類の防除薬剤例(地上防除・無人航空機防除両対応)

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用回数
キラップフロアブル	2B	収穫 14 日前まで	2 回以内
MR.ジョーカーEW	3A	収穫 14 日前まで	2 回以内
ダントツフロアブル	4A	収穫 7 日前まで	3 回以内
エクシードフロアブル	4C	収穫 7 日前まで	3 回以内
エミリアフロアブル	4F	収穫 7 日前まで	2 回以内

(使用基準は令和 4 年 7 月 27 日現在)

3 IRAC コード及び FRAC コードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

※ 埼玉県農薬危害防止運動実施中（令和 4 年 5 月 1 日～ 8 月 3 1 日）

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661



病虫害防除情報

令和4年 9月 5日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 チャのチャノキイロアザミウマについて

2 情報内容

(1) チャノキイロアザミウマの発生状況

8月中旬の発生予察調査では、虫数（4地点の成虫・幼虫数）が、過去10年間で最も多い結果となり、これは平年の約8倍の発生量です（図1）。

例年、9月は発生量が最も多くなるので、今後注意が必要です。

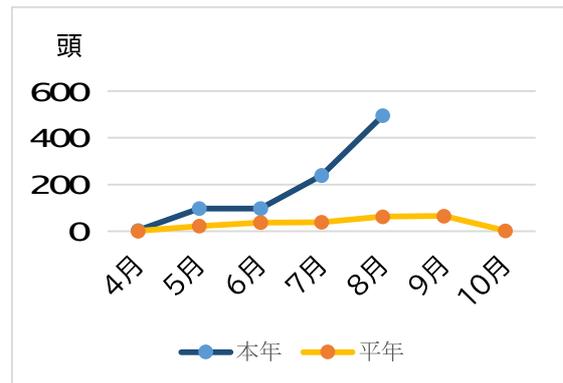


図1 チャノキイロアザミウマの発生量（4地点の成虫・幼虫数）

(2) チャノキイロアザミウマの特徴と被害

成虫の体長は0.8～0.9mmで体色は黄色で前翅は灰色です（写真1）。成虫で越冬し、4月から10月までの間に7～8回世代を繰り返します。

被害は、成虫、幼虫が、新芽、新葉、新梢を吸汁加害し、食害された部分は褐変硬化します（写真2、3）。



写真1 チャノキイロアザミウマ（成虫）



写真2 葉裏のスジ状の被害



写真3 葉表からも葉裏の被害が観察できる場合がある

(3) 防除のポイント

乾燥した晴天が続くと急激に増殖し、秋芽の萌芽・生育期は最も被害を受けます。特に萌芽期～生育初期の加害は被害が大きくなるので、芽の生育状態に合わせて、表1を参考にタイミングを逃さないよう防除しましょう。

表1 チャのチャノキイロアザミウマの防除薬剤例

薬 剤 名	I R A C コード	使 用 時 期	使用回数
MR. ジョーカー水和剤	3 A	摘採 2 1 日前まで	2 回以内
コテツフロアブル*	1 3	摘採 7 日前まで	2 回以内
ガンバ水和剤*	1 2 A	摘採 1 4 日前まで	1 回
スタークル顆粒水溶剤/ アルバリン顆粒水和剤	4 A	摘採 7 日前まで	2 回
ハチハチフロアブル*	2 1 A	摘採 1 4 日前まで	1 回
ウララ D F	2 9	摘採 7 日前まで	1 回
コルト顆粒水和剤	9 B	摘採 7 日前まで	2 回以内
テッパン液剤	2 8	摘採 3 日前まで	1 回
グレーシア乳剤	3 0	摘採 1 4 日前まで	1 回

* 劇物

(使用基準は令和4年9月1日現在)

3 I R A Cコード及びF R A Cコードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、I R A C（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びF R A C（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labomechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661



コバトン

病虫害防除情報



令和4年10月26日
埼玉県病虫害防除所

1 情報名 ダイズの吸実性カメムシ類について

2 情報内容

(1) ダイズの吸実性カメムシ類

ダイズの吸実性カメムシは莢伸長期から子実肥大期に子実を吸汁加害し、扁平莢や奇形粒を生じさせます。吸実されたダイズは子実への養分転流が抑制されるため、黄変が遅く、成熟期を過ぎても落葉せずに青立ちすることがあります。

吸実性カメムシ類にはアオクサカメムシ、ホソヘリカメムシ、イチモンジカメムシ等がありますが、近年他の吸実性カメムシ類より発生が遅いミナミアオカメムシが多発傾向にあり、収穫直前まで加害することから、被害が大きくなる傾向があります。



ミナミアオカメムシ成虫(体長約 13mm)



カメムシによる被害粒

参照：病虫害診断のポイントと防除対策

「ダイズのカメムシ類」 「ミナミアオカメムシ」

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0916/point-h27kai.html>

(2) 本年の発生状況

10月中旬の発生状況調査では、発生量は平年に比べて多くなっています。本年は7月中旬の大雨では種が遅れたり、まき直しをしたほ場の生育がやや遅れており、ミナミアオカメムシの多発ほ場が見受けられます。

(3) 防除対策

遅まきほ場や在来系統など晩生品種を作付しているほ場では、まだ被害を受ける可能性があります。ミナミアオカメムシ等が多発している場合は、収穫前日数に注意して、速やかに薬剤防除を実施してください。



莢に寄生するミナミアオカメムシ幼虫

表 ダイズのカメムシ類の防除薬剤例(地上防除・無人航空機防除両対応)

薬 剤 名	IRAC コード	使用時期	使用回数
カスケード乳剤	15	収穫 7 日前まで	2 回以内
ダントツフロアブル	4A	収穫 7 日前まで	3 回以内
スタークル液剤 10	4A	収穫 7 日前まで	2 回以内
キラップフロアブル	2B	収穫 7 日前まで	2 回以内
エクシードフロアブル	4C	収穫 14 日前まで	3 回以内

(使用基準は令和 4 年 10 月 25 日現在)

3 IRAC コード及びFRAC コードについて

病害虫の薬剤抵抗性発現防止の観点から、IRAC（世界農薬工業連盟殺虫剤抵抗性対策委員会）及びFRAC（同連盟殺菌剤耐性菌対策委員会）の農薬有効成分作用機構分類コードを記載しています。

農薬工業会ホームページ <http://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>

<農薬使用上の注意事項>

- 1 農薬は、必ず最新のデータ及びラベル等を確認の上、使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。

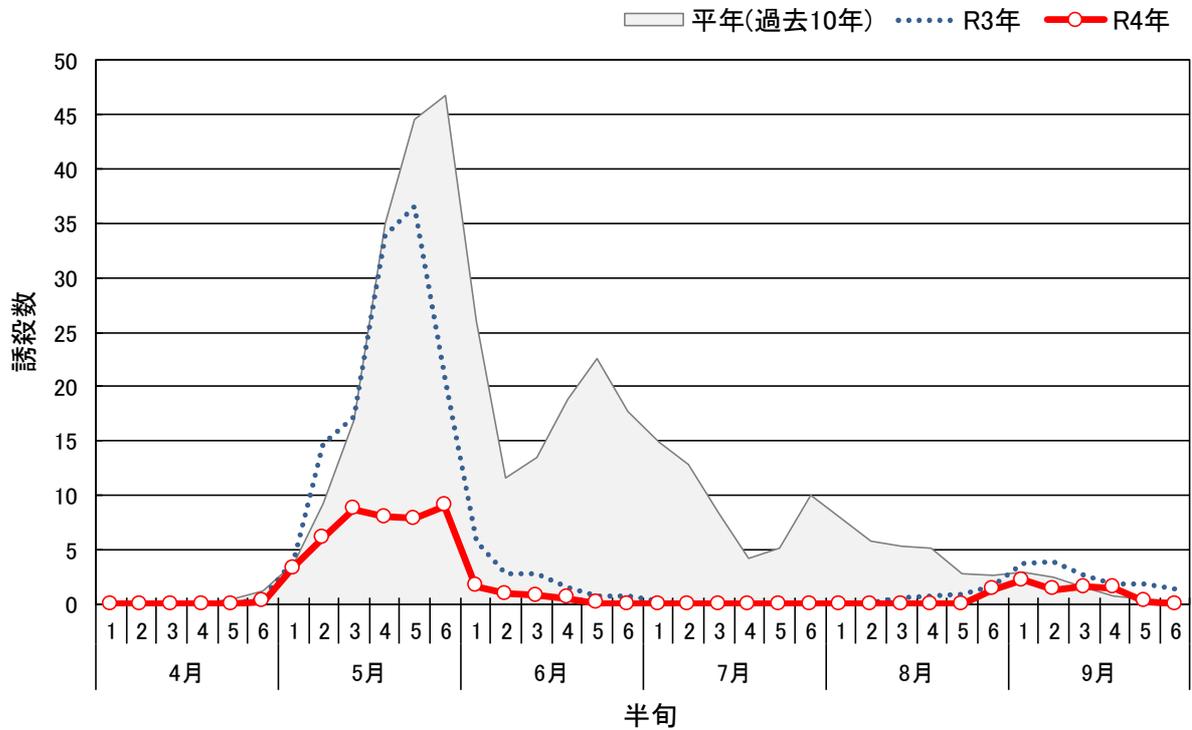
問い合わせ先 埼玉県病害虫防除所 TEL：048-539-0661

(2) 病虫害発生予察調査等結果

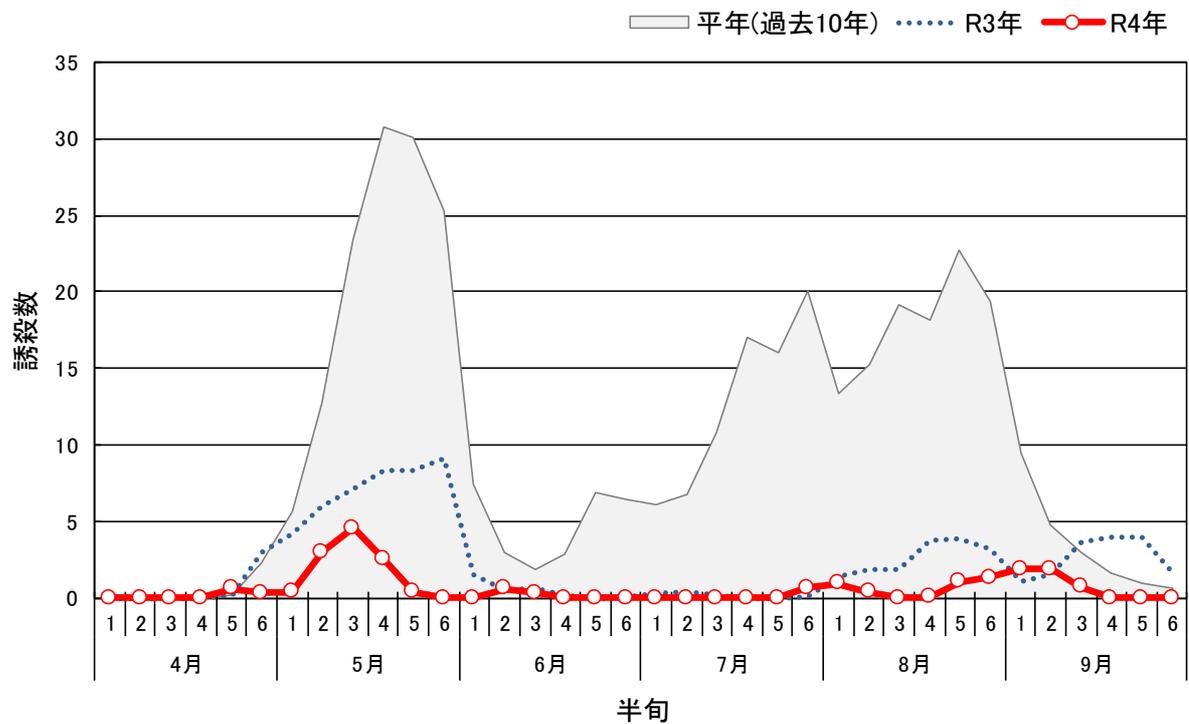
ア 水稲・麦

(ア) フタオビコヤガ (イネアオムシ) のフェロモントラップ調査 (4~9月)

対象作物:水稲 調査地点:熊谷市中曽根



対象作物:水稲 調査地点:加須市戸室



(イ) 麦ほ場におけるウンカ・ヨコバイ類生息密度調査(5月)

調査方法： 麦類の乳熟期(令和4年5月18日～20日)に、県内15地点の麦類ほ場において、1地点3か所で1m幅(0.2～0.6m²)の麦穂を10回叩いて落ちて来るヒメトビウンカを採取し、1m²当たりの生息密度を算出した。

調査結果： 令和4年度のヒメトビウンカの麦類叩き出し調査の結果は、18.0頭/m²で平年並ではあるが、過去10年では極端に高かった2013年(74.9頭/m²)に次いで高い。また、20頭/m²以上の調査地点が7か所(47%)あり、平年(17%)に比べて生息密度の高い調査地点が多い。

表. 令和3年5月麦類ウンカ・ヨコバイ生息密度調査結果 (単位： 頭/m²)

調査場所	調査月日	麦種	ヒメトビウンカ			ツマグロヨコバイ		
			成虫	幼虫	計	成虫	幼虫	計
川越市古谷上	5/20	小麦	0.0	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0
坂戸市片柳	5/20	小麦	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0
熊谷市樋春	5/18	小麦	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0
熊谷市中曾根	5/18	小麦	2.5	46.7	49.2	0.0	0.8	0.8
川島町戸守	5/18	小麦	1.1	25.6	26.7	0.0	1.1	1.1
熊谷市高本	5/18	小麦	0.0	38.3	38.3	0.0	0.0	0.0
鴻巣市屈巢	5/18	小麦	0.0	10.0	10.0	0.0	0.0	0.0
行田市上池守	5/18	大麦	1.3	1.3	2.7	0.0	1.3	1.3
行田市前谷	5/18	小麦	0.0	20.0	20.0	0.0	1.1	1.1
加須市大越	5/18	小麦	0.0	41.3	41.3	0.0	1.3	1.3
熊谷市飯塚	5/18	小麦	0.0	2.2	2.2	0.0	4.4	4.4
上里町長浜	5/18	小麦	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	0.0
本庄市児玉町	5/18	小麦	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
白岡市太田新井	5/18	大麦	2.2	40.0	42.2	0.0	0.0	0.0
蓮田市駒崎	5/18	小麦	0.0	4.4	4.4	0.0	0.0	0.0
平均(15地点)			0.5	17.5	18.0	0.0	0.7	0.7
昨年(令和3年)			0.3	3.4	3.6	0.0	0.7	0.7
平年値(過去10年間:平成24年～令和3年)			2.3	13.5	15.8	0.1	0.5	0.5

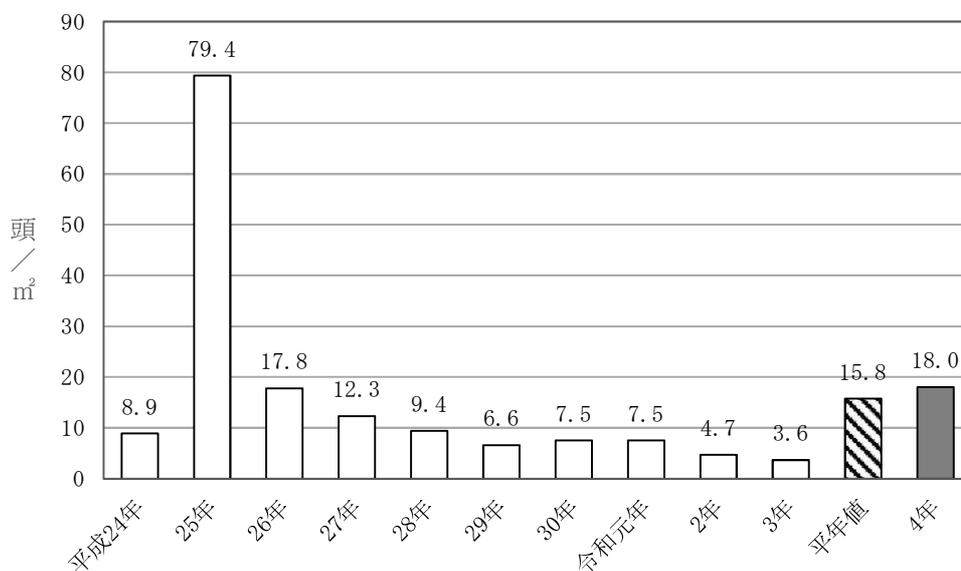


図. 令和4年5月ヒメトビウンカ密度調査結果 (麦類叩き出し)

(ウ) 水稲予察灯調査 (5~9月)

病害虫名		ニカメイガ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市	1	1	5	1	0	6	
	2	2	0	22	4	7	
	3	1	0	6	2	2	
	4	3	0	0	6	0	
	5	0	0	4	5	1	
	6	0	3	4	6	2	
	計	7	8	37	23	18	93
	平年値	0.8	0.9	2.9	2.3	1.5	8.4
川島町 上八ツ林	1	0	1	3	0	3	
	2	1	0	2	1	0	
	3	0	1	0	0	2	
	4	0	1	2	0	0	
	5	1	3	1	3	0	
	6	2	1	0	5	0	
	計	4	7	8	9	5	33
	平年値	4.2	3.8	1.9	3.4	0.7	14.0
熊谷市 玉井	1	0	0	1	0	1	
	2	1	0	2	3	0	
	3	2	0	0	2	0	
	4	2	3	0	0	0	
	5	1	1	0	2	0	
	6	1	5	0	0	0	
	計	7	9	3	7	1	27
	平年値	2.2	4.9	2.4	1.9	2.0	13.4
本庄市 児玉町 吉田林	1	0	1	1	2	6	
	2	0	0	6	1	1	
	3	0	0	4	3	0	
	4	0	0	4	4	0	
	5	1	0	9	7	0	
	6	2	0	2	7	0	
	計	3	1	26	24	7	61
	平年値	0.8	1.1	5.0	2.2	0.8	9.9
加須市 大越	1	0	0	0	9	12	
	2	0	1	0	5	6	
	3	4	0	0	1	3	
	4	4	2	1	6	0	
	5	2	1	10	0	0	
	6	2	0	3	6	0	
	計	12	4	14	27	21	78
	平年値	28.6	7.3	7.9	10.9	1.4	54.7
春日部市 樋籠	1	0	0	0	0	0	
	2	1	1	1	4	0	
	3	6	0	1	2	0	
	4	5	0	3	1	0	
	5	5	2	5	0	0	
	6	1	0	4	0	0	
	計	18	3	14	7	0	42
	平年値	1.6	2.2	4.9	7.6	1.4	17.7

病害虫名		イネミズゾウムシ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市	1	0	0	1	8	18	
	2	0	0	19	9	7	
	3	0	0	4	13	16	
	4	0	0	0	0	3	
	5	0	0	5	1	0	
	6	1	1	21	12	0	
	計	1	1	50	43	44	139
	平年値	2.5	1.3	12.6	2.3	0.1	18.8
川島町 上八ツ林	1	0	0	0	2	0	
	2	0	0	1	0	0	
	3	0	0	0	1	0	
	4	0	0	2	1	0	
	5	1	0	4	0	0	
	6	3	0	0	0	0	
	計	4	0	7	4	0	15
	平年値	0.4	2.1	1.0	0.4	0.1	4.0
熊谷市 玉井	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	1	0	0	0	
	5	0	2	0	0	0	
	6	0	0	1	0	0	
	計	0	3	1	0	0	4
	平年値	0.9	1.6	9.4	1.9	0.2	14.0
本庄市 児玉町 吉田林	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	1	0	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	1	0	0	0	
	5	1	0	0	0	0	
	6	1	0	0	0	0	
	計	2	1	1	0	0	4
	平年値	0.2	0.7	0.7	1.0	0.2	2.8
加須市 大越	1	0	1	1	4	0	
	2	0	0	6	1	0	
	3	0	0	0	2	0	
	4	0	0	95	1	0	
	5	0	0	45	0	0	
	6	0	0	16	1	0	
	計	0	1	163	9	0	173
	平年値	24.9	2.9	73.4	8.1	0.0	108.4
春日部市 樋籠	1	0	0	0	2	0	
	2	1	0	6	1	0	
	3	12	0	1	4	0	
	4	1	0	39	0	0	
	5	0	0	15	1	0	
	6	5	0	5	0	0	
	計	19	0	66	8	0	93
	平年値	12.0	4.1	133.3	9.4	0.3	159.1

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH24~R1年度と大越R3の9年間の平均値を使用。

病害虫名		ツマグロヨコバイ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川越市	3	0	0	0	0	0	
南田島	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	0	0	0
平年値		0.0	0.4	2.3	4.5	4.5	11.7
	1	0	0	0	2	1	
	2	0	0	2	2	1	
川島町	3	0	0	1	4	1	
上八ツ林	4	0	1	13	3	0	
	5	0	0	3	1	0	
	6	0	0	2	5	0	
計		0	1	21	17	3	42
平年値		1.5	7.3	45.9	36.0	46.2	136.9
	1	0	0	1	1	2	
	2	0	0	0	0	0	
熊谷市	3	0	0	0	0	1	
玉井	4	0	1	4	0	2	
	5	1	0	1	0	0	
	6	0	0	0	1	0	
計		1	1	6	2	5	15
平年値		0.5	0.8	11.4	40.9	39.2	446.8
	1	0	0	0	0	33	
	2	0	0	4	2	21	
本庄市	3	0	0	0	0	4	
児玉町	4	0	0	0	4	7	
吉田林	5	0	0	0	3	0	
	6	1	1	0	4	0	
計		1	1	4	13	65	84
平年値		0.8	3.3	13.7	176.9	488.5	683.2
	1	0	0	1	2	26	
	2	0	0	6	11	21	
加須市	3	0	0	3	21	17	
大越	4	0	0	15	34	11	
	5	0	4	12	2	0	
	6	0	4	3	34	0	
計		0	8	40	104	75	227
平年値		2.0	9.0	79.1	77.8	81.0	231.2
	1	0	0	0	1	0	
	2	0	0	0	0	0	
春日部市	3	0	0	0	3	0	
樋籠	4	0	13	6	0	0	
	5	0	1	1	0	0	
	6	0	2	0	0	0	
計		0	16	7	4	0	27
平年値		0.3	8.5	9.6	9.5	93.5	121.4

病害虫名		セジロウンカ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	2	0	1	
	2	0	0	1	2	0	
川越市	3	0	0	0	7	0	
南田島	4	0	0	0	8	0	
	5	0	0	0	12	0	
	6	0	0	1	1	2	
計		0	0	4	30	3	37
平年値		0.0	1.5	18.4	141.6	60.2	221.7
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
川島町	3	0	0	0	0	0	
上八ツ林	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	2	0	
	6	0	0	0	1	0	
計		0	0	0	3	0	3
平年値		0.0	0.6	3.4	3.8	4.4	12.2
	1	0	0	1	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
熊谷市	3	0	0	0	0	0	
玉井	4	0	0	0	1	0	
	5	0	0	5	4	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	6	5	0	11
平年値		0.0	0.1	4.2	20.4	13.7	38.4
	1	0	0	0	0	4	
	2	0	0	0	0	0	
本庄市	3	0	0	0	1	0	
児玉町	4	0	0	0	6	0	
吉田林	5	0	0	0	3	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	0	10	4	14
平年値		0.0	0.0	1.4	74.0	23.4	98.8
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	2	0	
加須市	3	0	0	0	2	0	
大越	4	0	0	1	6	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	0	0	1	0	
計		0	0	1	11	0	12
平年値		0.0	1.2	2.7	9.5	4.1	16.0
	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	0	0	
春日部市	3	0	0	0	2	0	
樋籠	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	1	0	0	
	6	0	0	0	0	0	
計		0	0	1	2	0	3
平年値		0.1	0.8	1.2	2.0	1.5	5.6

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH24～R1年度と大越R3の9年間の平均値を使用。

病害虫名		ヒメトビウンカ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	0	0	13	24	0	
	2	0	0	16	21	0	
	3	0	0	0	6	0	
	4	0	0	0	1	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	2	2	0	0	
計	0	2	31	52	0	85	
平年値	3.8	28.6	276.2	262.3	11.8	582.7	
川島町 上八ツ林	1	0	0	11	215	0	
	2	0	0	21	57	11	
	3	0	0	2	45	4	
	4	0	0	6	3	1	
	5	0	3	2	3	0	
	6	0	5	8	0	0	
計	0	8	50	323	16	397	
平年値	1.9	19.7	208.5	64.9	17.8	312.8	
熊谷市 玉井	1	0	0	19	49	0	
	2	0	0	29	48	2	
	3	0	0	2	28	0	
	4	0	2	1	9	1	
	5	0	2	4	15	0	
	6	0	2	9	2	0	
計	0	6	64	151	3	224	
平年値	5.0	29.3	469.7	596.2	57.5	1157.7	
本庄市 児玉町 吉田林	1	0	0	4	30	1	
	2	0	0	10	83	5	
	3	0	0	2	7	0	
	4	0	0	2	11	0	
	5	0	0	2	9	0	
	6	0	2	2	2	1	
計	0	2	22	142	7	173	
平年値	3.1	5.4	34.0	207.2	49.3	299.0	
加須市 大越	1	0	0	117	70	8	
	2	0	0	437	249	17	
	3	0	0	9	481	2	
	4	0	2	13	132	3	
	5	0	10	77	1	0	
	6	0	45	21	6	0	
計	0	57	674	939	30	1700	
平年値	0.6	14.4	47.8	211.3	4.5	254.6	
春日部市 樋籠	1	0	1	7	1	0	
	2	0	0	3	3	0	
	3	0	0	1	16	1	
	4	0	0	2	2	0	
	5	1	0	0	0	0	
	6	0	2	1	0	0	
計	1	3	14	22	1	41	
平年値	0.4	26.3	22.7	13.3	3.4	66.1	

病害虫名		フタオビコヤガ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	0	0	3	3	2	
	2	0	0	2	2	1	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	1	2	
	5	0	0	1	2	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	6	8	5	19	
平年値	0.6	1.9	7.6	18.6	3.2	31.9	
川島町 上八ツ林	1	0	0	0	0	2	
	2	0	0	0	0	1	
	3	0	0	0	0	2	
	4	0	1	1	2	1	
	5	0	0	1	4	0	
	6	0	1	0	9	0	
計	0	2	2	15	6	25	
平年値	9.5	5.3	9.0	12.0	2.8	38.6	
熊谷市 玉井	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	1	0	1	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	0	0	0	1	
	5	0	0	0	2	0	
	6	0	0	0	0	0	
計	0	0	1	2	2	5	
平年値	0.5	1.2	1.4	12.2	6.6	21.9	
本庄市 児玉町 吉田林	1	0	0	0	0	2	
	2	0	0	5	0	4	
	3	0	0	0	0	2	
	4	0	0	1	0	3	
	5	0	0	0	4	1	
	6	0	0	0	5	1	
計	0	0	6	9	13	28	
平年値	0.1	1.8	18.2	55.7	14.8	90.6	
加須市 大越	1	0	0	0	9	19	
	2	0	0	0	30	2	
	3	0	0	1	24	2	
	4	1	1	1	30	2	
	5	1	2	7	9	0	
	6	1	1	2	3	0	
計	3	4	11	105	25	148	
平年値	3.4	6.1	21.7	28.1	6.3	61.8	
春日部市 樋籠	1	0	0	0	0	0	
	2	0	1	0	0	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	1	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	1	0	0	0	
計	0	3	0	0	0	3	
平年値	1.1	2.7	1.6	6.7	1.8	13.9	

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH24～R1年度と大越R3の9年間の平均値を使用。

病害虫名		斑点米カメムシ類(アカヒゲを除く)					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	0	0	16	1	0	
	2	0	0	5	1	1	
	3	0	0	1	1	0	
	4	0	2	0	0	0	
	5	0	1	3	1	0	
	6	0	2	1	1	0	
計	0	5	26	5	1	37	
平年値	0.4	0.9	4.5	9.4	4.0	19.2	
川島町 上八ツ林	1	0	0	0	1	0	
	2	0	0	0	0	0	
	3	0	0	0	1	1	
	4	0	0	0	0	0	
	5	0	0	0	0	0	
	6	0	2	2	0	0	
計	0	2	2	2	1	7	
平年値	0.2	3.3	3.6	10.1	4.5	21.7	
熊谷市 玉井	1	0	0	0	0	0	
	2	0	0	0	1	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	1	0	0	0	
	5	0	1	0	0	0	
	6	0	1	0	0	0	
計	0	3	0	1	0	4	
平年値	0.1	0.8	1.3	2.5	0.6	5.3	
本庄市 児玉町 吉田林	1	0	0	13	0	5	
	2	0	0	2	0	7	
	3	0	0	1	0	11	
	4	0	1	1	3	4	
	5	1	0	3	3	0	
	6	0	15	0	0	7	
計	1	16	20	6	34	77	
平年値	1.3	4.4	15.3	23.6	12.5	57.1	
加須市 大越	1	0	1	1	1	1	
	2	0	0	5	3	1	
	3	0	0	0	4	0	
	4	0	0	1	2	2	
	5	2	4	1	2	0	
	6	0	4	0	4	0	
計	2	9	8	16	4	39	
平年値	0.0	0.6	3.7	16.5	5.6	23.9	
春日部市 樋籠	1	0	0	0	1	0	
	2	0	0	3	1	0	
	3	0	0	0	0	0	
	4	0	0	1	0	0	
	5	0	1	0	1	0	
	6	0	2	1	1	0	
計	0	3	5	4	0	12	
平年値	1.6	4.8	4.9	8.2	2.0	21.5	

病害虫名		アカヒゲホソミドリカスミカメ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
川越市 南田島	1	0	0	16	0	1	
	2	0	0	27	1	0	
	3	0	0	3	0	0	
	4	0	7	0	2	1	
	5	0	10	0	2	0	
	6	0	10	0	9	0	
計	0	27	46	14	2	89	
平年値	0.4	33.0	71.9	60.8	14.1	180.2	
川島町 上八ツ林	1	0	0	0	8	2	
	2	0	0	0	1	0	
	3	0	0	0	3	1	
	4	0	0	3	0	1	
	5	0	0	0	1	0	
	6	0	1	2	1	0	
計	0	1	5	14	4	24	
平年値	0.4	12.9	31.4	10.0	4.5	59.2	
熊谷市 玉井	1	0	0	61	14	0	
	2	0	0	27	2	1	
	3	0	9	1	17	0	
	4	0	88	4	2	0	
	5	0	11	0	16	0	
	6	2	80	2	3	0	
計	2	188	95	54	1	340	
平年値	24.9	276.7	298.3	157.6	39.5	797.0	
本庄市 児玉町 吉田林	1	0	4	33	5	4	
	2	0	1	46	5	3	
	3	0	12	4	4	13	
	4	0	84	11	2	4	
	5	1	12	23	10	0	
	6	0	31	3	7	1	
計	1	144	120	33	25	323	
平年値	1.6	31.3	134.0	99.3	23.3	289.5	
加須市 大越	1	0	1	6	7	16	
	2	0	0	40	10	2	
	3	0	1	1	21	0	
	4	0	5	12	17	0	
	5	0	60	2	1	0	
	6	0	9	14	18	0	
計	0	76	75	74	18	243	
平年値	2.7	60.1	66.1	48.5	4.5	176.0	
春日部市 樋籠	1	0	0	8	0	0	
	2	0	0	4	2	0	
	3	0	0	0	6	0	
	4	0	9	9	0	0	
	5	0	5	0	0	0	
	6	0	5	0	0	0	
計	0	19	21	8	0	48	
平年値	1.4	19.5	15.9	12.5	1.8	51.1	

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH24～R1年度と大越R3の9年間の平均値を使用。

病害虫名		トビイロウンカ					
地点名	半旬	5月	6月	7月	8月	9月	年計
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
川越市	3	0	0	0	0	0	0
南田島	4	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
川島町	3	0	0	0	0	0	0
上八ツ林	4	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.2	0.8	1.0
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
熊谷市	3	0	0	0	0	0	0
玉井	4	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
本庄市	3	0	0	0	0	0	0
児玉町	4	0	0	0	0	0	0
吉田林	5	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
加須市	3	0	0	0	0	0	0
大越	4	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0
春日部市	3	0	0	0	0	0	0
樋籠	4	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1

注) 平年値は直近10年間の平均値。加須市大越はR3年度開始のため、隣接の加須市外野のH24～R1年度と大越R3の9年間の平均値を使用。

(エ) いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（BLASTAM）（5～9月）

a 葉いもち発生予測システム（BLASTAM）について

イネいもち病は空気伝染性病害であるため、発生には気象条件が大きく影響する。気温が20～25℃で曇雨天の日が続き、イネの葉に水滴が付いている状態がいもち病菌の分生子の発芽、侵入、蔓延に好適な条件であり、発生が助長される。

葉いもち発生予測システム（BLASTAM）では、アメダス各地点の気象データの降水量、日照時間、風速からイネ葉面の濡れ時間（湿潤時間）を推定し、気温との組み合わせで、いもち病感染好適条件を判定するものである。

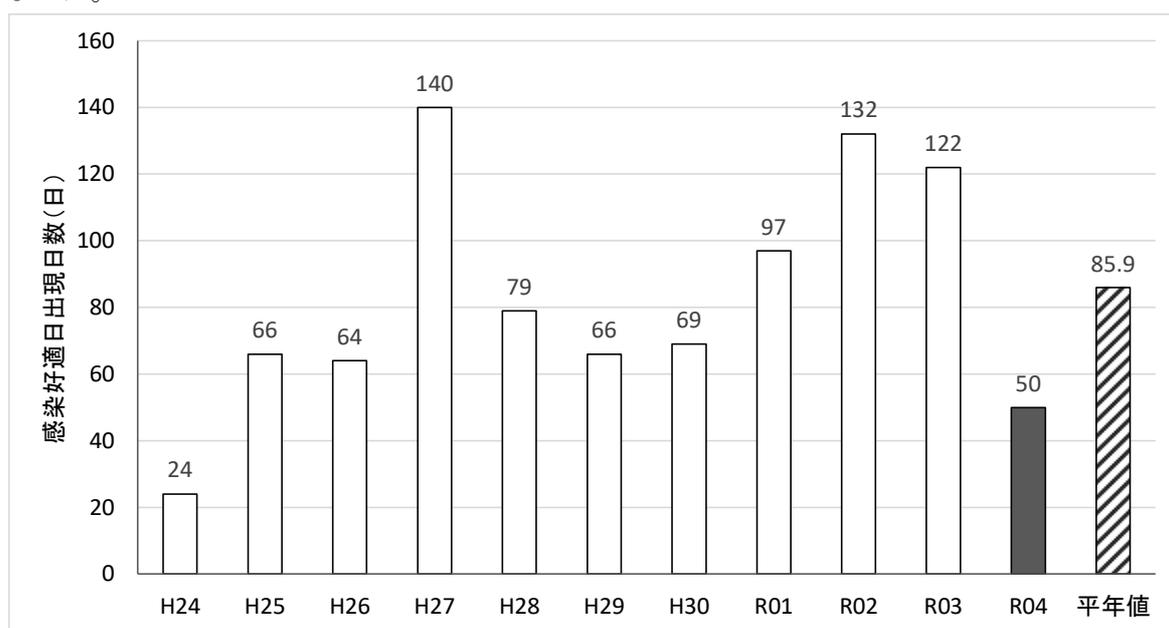
b イネいもち病の発生状況について

ホームページ上で、6月1日から15日ごとに、県内の感染好適日の出現状況を発表し、平年（過去10年間）との比較を数値化することで、適期防除を啓発した。

埼玉県において感染好適日が初出現したのは6月15日（平年5月27日）であり、平年より遅かった。例年では5月末から7月中旬ごろまでが梅雨であり、いもち病の感染好適日が多く出現するが、本年は6月下旬に記録的猛暑となり一時梅雨明けが発表されるなど例年では見られない気候が出現した。その影響で感染好適日は6月25日～7月15日まで0日（平年26.2日）であった。その後戻り梅雨のような形で7月12日以降気温が下がり、曇や雨の日が約10日間続き、梅雨明けは7月23日と訂正された。例年にない気象経過の影響もあり、いもち病の感染好適日は県内8か所ですべて計50日と平年（85.9日）より少ない日数であった。

7月中旬に実施した、イネいもち病（葉いもち）発生予察調査では、発病地点率は36.4%と平年並（平年39.6%）であった。

8月末の時点で、5月20日までの移植地域の葉いもちの発生面積は72haで平年よりやや少なかった。5月20日以降の移植地域では、葉いもちの発生面積が996haで平年よりやや少なかったが、9月の降水量が多かったため穂いもちの発生面積は34haと平年並の発生となった。



(5月1日～9月30日における県内8地点の合計日数)

表. いもち病（葉いもち）感染好適条件出現状況（令和4年5～9月）

※JPP-NETより引用

地点 月日	寄居	熊谷	久喜	秩父	鳩山	たさい まい	越谷	所沢
5月1日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月2日	3	—	3	3	3	—	—	—
5月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
（ ） 感染好適日が出現しなかったため省略								
5月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月29日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
5月31日	—	—	—	—	4	—	—	—
6月1日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月2日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月3日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月5日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月6日	—	—	—	—	—	—	4	—
6月7日	—	4	—	—	—	—	4	—
6月8日	3	4	4	3	1	1	4	—
6月9日	4	—	4	4	—	4	—	—
6月10日	4	—	—	—	4	—	—	—
6月11日	1	—	1	—	—	—	—	1
6月12日	4	—	4	4	—	—	4	—
6月13日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月15日	3	●	●	3	1	●	4	3
6月16日	—	—	—	3	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月19日	?	—	●	—	—	●	●	1
6月20日	?	—	—	—	—	—	—	—
6月21日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	●	—	—	●	●	●	—	●
6月24日	—	—	—	—	●	—	—	—
6月25日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月27日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	—	—	—	3	—	—
6月29日	—	—	—	—	—	—	—	—
6月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月1日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月2日	—	—	—	?	—	—	—	—
7月3日	—	—	—	?	—	—	—	—
7月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月5日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月6日	—	—	2	2	2	2	—	—
7月7日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月8日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月9日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月10日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月11日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月12日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月13日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月14日	2	2	—	2	2	—	2	2
7月15日	2	—	2	2	2	2	2	2
7月16日	—	—	●	●	—	—	—	●

地点 月日	寄居	熊谷	久喜	秩父	鳩山	たさい まい	越谷	所沢
7月17日	●	●	●	—	●	●	●	—
7月18日	—	—	—	—	●	—	—	—
7月19日	—	—	—	—	—	—	—	—
7月20日	—	—	—	—	—	—	—	—
（ ） 感染好適日が出現しなかったため省略								
8月13日	3	—	—	2	3	—	—	—
8月14日	—	—	—	2	—	—	—	—
8月15日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月16日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月17日	3	—	—	2	—	—	—	—
8月18日	2	2	2	2	2	2	2	—
8月19日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月20日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月21日	2	2	2	2	2	2	2	2
8月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月23日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月24日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月25日	2	—	—	—	—	—	—	—
8月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月27日	2	—	—	—	3	—	—	—
8月28日	2	—	2	2	—	—	—	—
8月29日	—	—	—	—	—	—	—	—
8月30日	4	2	—	●	2	—	—	●
8月31日	●	—	—	—	●	●	●	●
9月1日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月2日	●	●	●	—	—	—	—	—
9月3日	—	●	●	—	●	●	—	4
9月4日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月5日	●	●	—	—	●	—	—	—
9月6日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月7日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月8日	—	—	—	—	—	2	—	—
9月9日	●	2	2	●	—	—	2	—
9月10日	●	—	—	—	—	—	—	—
9月11日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月12日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月13日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月14日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月15日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月16日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月17日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月18日	—	—	—	—	●	2	—	●
9月19日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月20日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月21日	—	—	—	—	—	—	4	—
9月22日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月23日	—	●	●	●	—	●	—	—
9月24日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月25日	—	—	—	—	—	●	●	—
9月26日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月27日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月28日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月29日	—	—	—	—	—	—	—	—
9月30日	—	—	—	—	—	—	—	—
計	7	6	7	5	8	8	4	5
平年値	11.7	11.2	9.7	12.9	12.1	8.3	12.5	7.5

・発生指標の解説(数字の1～4は感染のしやすさの段階を示すものではない。)

●	感染好適条件	湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間満たし、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温の平均値が20～25℃の範囲にある
1	準好適条件 1	湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満
2	準好適条件 2	湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が21℃以上
3	準好適条件 3	湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤時間中の平均気温が15～25℃の範囲外
4	準好適条件 4	湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い
—	好適条件なし	
?	判定不能	

(オ) トビイロウンカ、セジロウンカ、コブノメイガ飛来予測日回数(5~9月)

令和4年

月日	本年	平年	月日	本年	平年	月日	本年	平年	月日	本年	平年	月日	本年	平年
05/01	0	0.0	06/01	0	0.0	07/01	J P P - N E T の シ ス テ ム 障 害 に よ り 飛 来 予 測 が で き て お り ま せ ん	0.2	08/01	J P P - N E T の シ ス テ ム 障 害 に よ り 飛 来 予 測 が で き て お り ま せ ん	0.0	09/01	J P P - N E T の シ ス テ ム 障 害 に よ り 飛 来 予 測 が で き て お り ま せ ん	0.0
05/02	0	0.0	06/02	0	0.0	07/02		0.2	08/02		0.0	09/02		0.0
05/03	0	0.1	06/03	0	0.1	07/03		0.3	08/03		0.0	09/03		0.0
05/04	0	0.0	06/04	0	0.1	07/04		0.4	08/04		0.0	09/04		0.0
05/05	0	0.0	06/05	0	0.1	07/05		0.2	08/05		0.0	09/05		0.0
05/06	0	0.0	06/06	0	0.0	07/06		0.2	08/06		0.0	09/06		0.0
05/07	0	0.2	06/07	0	0.0	07/07		0.3	08/07		0.0	09/07		0.1
05/08	0	0.1	06/08	0	0.0	07/08		0.1	08/08		0.0	09/08		0.0
05/09	0	0.0	06/09	0	0.1	07/09		0.2	08/09		0.2	09/09		0.0
05/10	0	0.0	06/10	0	0.0	07/10		0.1	08/10		0.1	09/10		0.0
05/11	0	0.1	06/11	0	0.0	07/11		0.1	08/11		0.0	09/11		0.0
05/12	0	0.1	06/12	0	0.1	07/12		0.1	08/12		0.0	09/12		0.1
05/13	0	0.2	06/13	0	0.0	07/13		0.2	08/13		0.0	09/13		0.1
05/14	0	0.0	06/14	0	0.1	07/14		0.1	08/14		0.3	09/14		0.0
05/15	0	0.0	06/15	0	0.1	07/15		0.1	08/15		0.1	09/15		0.0
05/16	0	0.2	06/16	0	0.1	07/16		0.1	08/16		0.1	09/16		0.0
05/17	0	0.1	06/17	0	0.2	07/17		0.1	08/17		0.1	09/17		0.0
05/18	0	0.1	06/18	0	0.0	07/18		0.1	08/18		0.0	09/18		0.1
05/19	0	0.2	06/19	0	0.0	07/19		0.0	08/19		0.0	09/19		0.0
05/20	0	0.1	06/20	0	0.0	07/20		0.0	08/20		0.0	09/20		0.0
05/21	0	0.1	06/21	0	0.0	07/21		0.0	08/21		0.0	09/21		0.0
05/22	0	0.1	06/22	0	0.2	07/22		0.0	08/22		0.1	09/22		0.0
05/23	0	0.0	06/23	0	0.0	07/23		0.0	08/23		0.0	09/23		0.0
05/24	0	0.0	06/24	0	0.0	07/24		0.1	08/24		0.0	09/24		0.0
05/25	0	0.0	06/25	1	0.1	07/25		0.1	08/25		0.2	09/25		0.1
05/26	0	0.1	06/26		0.1	07/26		0.1	08/26		0.2	09/26		0.0
05/27	0	0.0	06/27		0.2	07/27		0.0	08/27		0.2	09/27		0.0
05/28	0	0.1	06/28		0.1	07/28		0.0	08/28		0.2	09/28		0.1
05/29	0	0.0	06/29		0.0	07/29		0.0	08/29		0.1	09/29		0.0
05/30	0	0.0	06/30		0.1	07/30		0.0	08/30		0.1	09/30		0.0
05/31	0	0.0				07/31		0.0	08/31		0.0	合計		1

※本年度は6月26日以降JPP-NETのシステム障害によりデータなし。

(注1) 平年値は、平成24~令和3年までの過去10年間の平均値

(注2) 数値の説明：0…飛来無し日 1…飛来有り日

(注3) 飛来予測日は、JPP-NET（（一社）日本植物防疫協会）が提供する、『ウンカ飛来予測システム』の数値を使用

(注4) トビイロウンカ、セジロウンカ及びコブノメイガは、埼玉県内で越冬できず、中国大陸からジェット気流に乗って飛来する。

（一社）日本植物防疫協会では、大陸での害虫の飛び立ち日と気流の状況から、日本国内各地点への飛来予測日を算出する情報を提供している。予測飛来日回数が多いほど、害虫の多発が予想される。



トビイロウンカ成虫



セジロウンカ成虫



コブノメイガ成虫

(カ) スクミリンゴガイの被害状況調査(6～7月)

- 1 調査年月日:被害状況調査は、田植後1～2か月後に調査(6～7月頃に調査する)
- 2 調査場所:発生日での拡大状況を水田及び用水路で実施する/各担当地域
- 3 調査項目等:次表のとおり(調査日、品種、生息域面積、被害面積率、被害面積、被害状況)
- 4 具体的な調査方法

生息域面積:生息域面積は水田や用排水路の貝や卵塊の目視
 被害面積率:欠株率1%以上のほ場割合
 卵塊数:用・排水路又は畦畔10m当たりの平均卵塊数
 被害状況:欠株の目視



調査年月日	主な調査地点	品種名	作型	移植時期	生息域面積 (ha)	被害面積率 (%)	被害面積 (ha)	卵塊数 (塊/10m)	被害状況 (被害田の欠株率)		備考	
									平均(%)	最大(%)		
令和4年	6月16日	加須市琴寄	コシヒカリ	早期	4月下旬	60	1	0.6	7.7	0	1	分けつ期以降に貝が侵入したため、無防除水田でもほぼ被害なし。
4年	6月16日	加須市外記新田	コシヒカリ	早期	4月下旬	13	1	0.1	5.4	0	1	分けつ期以降に貝が侵入したため、無防除水田でもほぼ被害なし。
4年	6月22日	幸手市千塚	コシヒカリ	早期	5月上旬	5	10	0.5	8.7	3	10	昨年最大卵塊数(62塊/10m)を計数した畦畔が、本年は24塊/10mと大幅に減少。
4年	6月29日	さいたま市西区宝来	不明	早植	5月上旬	9	1	0.1	5.3	0	1	昨年は道路、畦畔沿いで貝を人力採取・処分していたが、本年は水田にほとんど貝が見られず、処分の痕跡も非常に少ない。
4年	6月29日	さいたま市桜区	不明	早植～普通	5月中旬～6月中	10	15	1.6	5.4	3	10	移植期が5月中旬から6月中旬まで混在しており、移植が遅いほ場で欠株が目立つ。
4年	6月30日	富士見市南畑新田	不明	早植～普通	5月中旬～6月中	77	1	0.8	2.6	1	2	排水路に貝が生息しているが、水田には少なく、欠株等の被害も少ない。排水路等の貝や卵塊も昨年より減少。
4年	6月30日	さいたま市西区塚本町	不明	普通	6月上旬	22	1	0.2	10.0	1	2	排水路に貝が生息しているが、水田には少なく、欠株等の被害も少ない。排水路等の貝や卵塊は昨年より増加。
4年	7月21日	吉見町久保田新田	不明	普通	5月下旬	35	2	0.7	11.0	1	2	貝の多い水田は休耕のため、被害水田は昨年より少ない。一部に卵塊が多い排水路(最大31塊/10m)がある。
4年	7月14日	鴻巣市大芦	不明	普通	6月中旬	8	2	0.2	3.0	1	2	移植の遅い水田の一部で若干欠株が見られるが、被害水田は昨年より少ない。
4年	7月29日	熊谷市下奈良	不明	普通	6月下旬	39	5	2.0	24.9	2	8	欠株率8%程度の水田が30a程度まとまって存在するが、被害水田は昨年より減少。排水路の卵塊は昨年より増加。
4年	7月29日	熊谷市西城	不明	普通	6月下旬	23	30	6.8	215.5	5	50	昨年被害が多かったほ場は休耕だったが、隣接の無防除水田が壊滅的な被害となった。欠株率高いほ場では、パイプラインのマスに卵塊が500塊以上付着。
4年	7月29日	熊谷市善ヶ島	不明	普通	6月下旬	90	5	4.5	48.7	3	15	排水処理施設と生活排水路が水田に近接しており、通年で増殖している。
4年	7月29日	熊谷市八ツ口	不明	普通	6月下旬	73	5	3.7	36.2	2	8	善ヶ島の備前渠用水対岸。排水路の卵塊、被害水田とも昨年より減少しているが、最大卵塊数は124塊/10mと多い。
4年	8月2日	熊谷市弥藤吾	不明	普通	6月下旬	7	5	0.4	59.0	2	5	昨年から発生し始めたため、防除が浸透していない。
合計(面積)／平均(卵塊数)						473		22.1	31.7			
昨年(令和3年度)						444		45.1	22.7			

(キ) 水稻観察地点調査(6~9月)

a 20回振りすくい取り(頭)

			ヒメトビウンカ				セジロウンカ				ツマグロヨコバイ			
			6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	幼虫	0.0	8.1	152.4	62.5	0.0	0.0	2.4	0.0	0.0	1.6	328.8	330.5
		成虫	7.5	27.3	68.1	27.0	0.0	0.3	1.6	0.0	8.2	17.1	120.0	87.0
	平年値	幼虫	3.7	6.5	57.4	101.0	0.0	0.0	0.4	1.0	0.1	1.9	128.6	310.0
		成虫	5.7	30.6	78.0	124.5	0.0	0.1	4.9	2.5	2.6	7.9	58.9	121.0
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	幼虫	0.0	3.2	131.0	147.0	0.0	0.0	3.3	6.0	1.5	0.0	0.5	11.0
		成虫	0.0	30.2	147.2	99.3	0.0	0.4	3.8	5.8	0.0	0.0	0.3	8.3
	平年値	幼虫	0.1	4.5	140.2	179.6	0.0	0.0	6.6	11.9	0.0	0.2	5.5	31.5
		成虫	1.4	11.8	117.2	82.5	0.0	0.2	7.2	7.7	0.0	0.7	1.9	38.4

			斑点米カメムシ類 (アカヒゲホリミドリカスミカ)				斑点米カメムシ類 (クモヘリカメムシ)				斑点米カメムシ類 (その他)			
			6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	平年値	1.6	0.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	0.5	
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	0.0	1.8	7.2	0.3	0.0	0.0	0.7	3.2	0.0	0.0	1.3	1.8	
	平年値	2.3	0.9	0.9	0.2	0.0	0.1	0.1	0.8	0.0	0.1	0.2	0.2	

			イネツトムシ				イネアオムシ			
			6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	

- ・空欄は移植直後及び収穫後等により調査不能のためデータ無し
- ・平年値：平成28~令和3年の6年間の平均値
- ・令和4年度調査地点

【5/20までの移植ほ場】

川越市小中居、川島町西谷、吉見町西吉見、熊谷市中曾根、春日部市樋籠、幸手市神扇、吉川市中井

【5/20以降の移植ほ場】

坂戸市横沼、毛呂山町箕和田、嵐山町廣野、本庄市児玉町吉田林、美里町関、加須市大越

b 病虫害発生調査結果

		葉いもち				穂いもち (%)				紋枯病			
		(発病度)				(被害利率)				(発病度)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	17.0
	平年値	0.0	1.0	1.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.5	3.6	20.7
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	0.0	0.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	12.0
	平年値	0.0	0.4	3.4	3.2	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.6	2.1	13.2

		もみ枯細菌病 (%)				ごま葉枯病				ばか苗病 (%)			
		(発病利率)				(発病度)				(発病株率)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

		縞葉枯病 (%)				心枯線虫病 (%)			
		(発病株率)				(発病株率)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	0.0	0.3	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	2.4	6.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.8	1.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0

		ニカメイガ (%)				イネツトムシ (個)				フタオビコヤガ* (頭)			
		(発病株率)				(苞数/25株あたり)				(虫数/1株あたり)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2

*別名：イネアオムシ

		コブノメイガ (%)				イネミズゾウムシ (頭)			
		(被害葉率)				(虫数/25株あたり)			
		6月	7月	8月	9月	6月	7月	8月	9月
5/20までの 移植ほ場	令和4年	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
5/20以降の 移植ほ場	令和4年	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	平年値	0.0	0.0	0.3	1.9	0.2	0.0	0.0	0.0

- ・空欄は移植直後及び収穫後等により調査不能のためデータ無し
- ・平年値：平成28～令和3年の6年間の平均値
- ・発病度は「H28 発生予察事業の調査実施基準（農林水産省）」に基づき、算出した。

(ク) イネツトムシ発育予測 (7月)

(有効積算温度シミュレーション計算値：6月1日～)

a 7月4日現在の予測

表1 イネツトムシ第2世代の産卵最盛日～4齢終了までの予測

項目	令和4年予測	令和3年	平年	平年との差
産卵最盛日	7月18日	7月21日	7月21日	平年より3日早い
孵化最盛日	7月22日	7月25日	7月25日	平年より3日早い
3齢脱皮最盛日	7月31日	8月3日	8月3日	平年より3日早い
4齢脱皮最盛日	8月3日	8月6日	8月6日	平年より3日早い

注)：例年多発ほ場では予測値と一致し、少発生ほ場では発生時期が早い

算出方法：令和4年7月4日までの実測気象データ。その後は平年値を入力。

産卵最盛日は(6月1日～有効積算温度539日度の日)。孵化最盛日は(同594日度)

3齢脱皮最盛日は(同722日度)。4齢脱皮最盛日は(772日度) 発育零点は13.4℃。

b 実測気象データによる予測結果

表2 イネツトムシ第2世代の産卵最盛日～4齢終了までの予測結果

項目	令和4年予測	令和3年	平年	平年との差
産卵最盛日	7月18日	7月21日	7月21日	平年より3日早い
孵化最盛日	7月22日	7月25日	7月25日	平年より3日早い
3齢脱皮最盛日	7月30日	8月3日	8月3日	平年より4日早い
4齢脱皮最盛日	8月2日	8月6日	8月6日	平年より4日早い

* 薬剤防除を必要とする目安(孵化最盛日より4～7日の間に密度調査を行う)

孵化直後の幼虫が存在しない場合(既に2～3齢以上に成長)

0.3個体/株 [100株調査で30個体]: 発生数が確定したと推定。

孵化直後の幼虫が存在する場合(1～2齢が中心)

0.05個体/株 [100株調査で5個体]: 今後増加が懸念される。

注) 0.3個体/株の発生によって、5%以下の減収とみなされる。

参考：神奈川以南、千葉県海岸線で越冬しているが、神奈川県のピークが5月下旬として、埼玉県への飛来は6/1としている。

(ケ) フタオビコヤガ(イネアオムシ)発育予測 (7月)

「有効積算温度シミュレーション計算値：フェロモン調査の越冬世代成虫の50%誘殺日(5月12日)の翌日から」

a 7月4日現在の予測

表1 フタオビコヤガの発育次世代予測

項目	令和4年予測	令和3年	平年	平年との差
基準日(越冬世代成虫50%誘殺数)	5月12日	5月18日	-	(基準日は平年値は無し)
第1世代成虫発蛾最盛日	6月17日	6月17日	6月19日	平年より2日早い
第2世代成虫発蛾最盛日	7月6日	7月13日	7月13日	平年より7日早い
第3世代成虫発蛾最盛日	7月27日	8月1日	8月3日	平年より7日早い

注)：発育零点は10.2℃

算出方法：令和4年7月4日までの気象データ。その後は平年値を入力。

第1世代成虫発蛾最盛日は(越冬世代成虫50%誘殺日から有効積算温度341日度の日)。

第2世代成虫発蛾最盛日は(越冬世代成虫50%誘殺日から有効積算温度682日度の日)。

第3世代成虫発蛾最盛日は(越冬世代成虫50%誘殺日から有効積算温度1023日度の日)。

b 実測気象データによる予測結果

表2 フタオビコヤガの発育次世代予測結果

項目	令和4年予測	令和3年	平年	平年との差
基準日(越冬世代成虫50%誘殺数)	5月12日	5月18日	-	(基準日は平年値は無し)
第1世代成虫発蛾最盛日	6月17日	6月17日	6月19日	平年より2日早い
第2世代成虫発蛾最盛日	7月6日	7月13日	7月13日	平年より7日早い
第3世代成虫発蛾最盛日	7月27日	8月1日	8月3日	平年より7日早い

注)：発育零点は10.2℃

* 薬剤防除を必要とする目安(最盛日の2～7日後)

(コ) いもち病発生状況調査結果 (7月)

- 1 調査時期：7月中旬（基準日7月15日）
- 2 調査場所：定点および常発地
- 3 調査項目等：表のとおり
- 4 調査方法：任意の100株について調査

【参考】 発病度について
 1～20：少発生、21～40：中発生
 41～70：多発生、71以上：甚発生



いもち病(葉いもち)
 左:慢性型病斑
 右:進行型病斑

調査年月日 (令和)	調査地点	定点又は 常発地別	品種名	移植期	草丈 (cm)	発病 株率 (%)	発病度	病斑の種類		発病 部位	備 考	
								慢性型	進行型			
4年	7月14日	鴻巣市関新田	過去発生地点	不明	5月下旬	73	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	蓮田市駒崎	過去発生地点	不明	6月中旬	25.2	0	0.0	—	—	—	
〃	7月19日	川越市小中居	定点	コシヒカリ	5月中旬	90.6	0	0.0	—	—	—	
〃	7月19日	坂戸市横沼	定点	彩のかがやき	5月下旬	76.6	0	0.0	—	—	—	
〃	7月19日	毛呂山町箕和田	定点	コシヒカリ	5月下旬	82.9	1	0.3	1	0	葉	
〃	7月19日	嵐山町廣野	定点	彩のきずな	6月上旬	63	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	川島町曲師	定点	コシヒカリ	5月下旬	84	2	0.5	0	2	葉	
〃	7月14日	吉見町西吉見	定点	コシヒカリ	5月下旬	82	0	0.0	—	—	—	
〃	7月12日	秩父市太田	常発地	キヌヒカリ	6月上旬	72	8	2.0	6	2	葉	畦畔のメヒシバ発病
〃	7月12日	秩父市小柱	常発地	キヌヒカリ	6月上旬	72	7	1.8	0	7	葉	
〃	7月12日	小鹿野町下小鹿野	常発地	不明	6月中旬	68	1	0.3	0	1	葉	
〃	7月12日	皆野町三沢	常発地	キヌヒカリ	6月上旬	74	100	50.0	0	100	葉	周辺圃場、周辺イネ科雑草にも多発
〃	7月14日	本庄市吉田林	定点	キヌヒカリ	6月中旬	31	0	0.0	—	—	—	
〃	7月19日	美里町関	定点	コシヒカリ	5月下旬	73	1	0.3	1	0	葉	
〃	7月13日	熊谷市中曾根	定点	コシヒカリ	5月上旬	87	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	行田市前谷	旧定点	彩のかがやき	6月下旬	27	0	0.0	—	—	—	
〃	7月13日	加須市麦倉	定点	コシヒカリ	4月下旬	97	0	0.0	—	—	—	
〃	7月13日	加須市大越 1	定点	ほしじるし	6月中旬	46	0	0.0	—	—	—	
〃	7月13日	加須市大越 2	過去発生地点	不明	6月中旬	51	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	春日部市樋籠	定点	コシヒカリ	5月上旬	93.8	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	吉川市中井	定点	彩のきずな	5月中旬	67.4	0	0.0	—	—	—	
〃	7月14日	幸手市神扇	定点	コシヒカリ	5月中旬	88	1	0.3	1	0	葉	
調査地点数：22	発病地点数：8	発病地点率：36.4%			平均	5.5	2.5	1.1	14.0			

いもち病発生状況調査 過去の調査結果

調査年月日 (平成)	調査地点数	発病地点数	発病地点率 (%)	平均発病株 率 (%)	平均発病度	病斑の種類		備 考(注意報発表の有無など)
						慢性型	進行型	
24年	7月中下旬	28	6	21.4	0.5	6.0	0.0	
25年	7月中下旬	28	1	3.6	0.1	1.0	0.0	6月末の感染好適日は平年の2倍だったが、定点の調査結果を優先した。
26年	7月中下旬	32	4	12.5	1.3	0.6	0.7	6月1日～7月25日の感染好適日は平年の1.4倍。平坦地でも発生を確認した。
27年	7月中下旬	31	23	74.2	17.7	16.0	1.6	7月9日 注意報発表(葉いもち、穂いもち)
28年	7月中下旬	36	22	61.1	14.8	6.1	2.8	7月27日 注意報発表(葉いもち、穂いもち)
29年	7月中下旬	51	12	23.5	3.6	1.5	0.0	
30年	7月中下旬	22	5	22.7	22.7	1.0	0.0	
令和元年	7月中下旬	23	13	56.5	2.0	2.0	0.3	発生地点率は高かったが、発生程度や発生株率が低かったため、予察情報の発表はしなかった。
令和2年	7月中下旬	23	14	60.9	4.1	1.0	2.3	7月28日 注意報発表(葉いもち、穂いもち)
令和3年	7月中下旬	22	13	59.1	12.7	4.6	8.6	7月7日 注意報発表(葉いもち)
過去10年間平均	29.6	11.3	39.6	8.0	2.7	5.7	1.6	

(サ) 水稻の斑点米カメムシ類の畦畔・雑草地発生調査結果(7月)



主な斑点米カメムシ類(表中出現順)

- 1 調査年月日:7月中旬頃を基準日として調査した。
- 2 調査場所:これまで実施してきた調査地点(畦畔・雑草地・土手等)/各担当地域。
- 3 調査項目等:斑点米カメムシ類の幼虫・成虫別に計数調査した。
次表のとおり。(調査地点、調査日、カメムシ類別、調査場所の状況(雑草の種類、草丈などの管理状況等について分かる範囲で記載する。))
- 4 具体的な調査方法:捕虫網による10往復・20回振り調査。

調査年月日	調査地点/種類	アカヒゲホソミドリカスミカメ		アサスジカスミカメ		クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ		トゲシラホシカメムシ		その他		合計 頭	参考 前年 (R3年)	備考 (雑草などの管理状況等)	
		幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫				
令和																			
4年	7月19日	川越小中居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	6	畦畔
4年	7月19日	坂戸横沼	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	3	畦畔
4年	7月19日	毛呂山箕和田	0	0	0	0	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	5	4	畦畔
4年	7月19日	嵐山町杉山	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	畦畔
4年	7月14日	川島町曲師	0	5	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	8	15	畦畔、その他(マルシラホシカメムシ1)
4年	7月21日	吉見町久保田	1	13	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	18	6	畦畔、その他(ヒゲナガカメムシ1)
4年	7月14日	吉見町西吉見	10	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27	8	畦畔
4年	7月19日	本庄市吉田林	3	68	0	25	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	97	6	畦畔、メヒシバ(20cm)
4年	7月19日	美里町関1	1	23	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24	3	畦畔、メヒシバ(20~25cm)主体
4年	7月19日	美里町関2	0	12	0	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	20	44	農道脇、メヒシバ(10cm)とクローバー主体
4年	7月13日	熊谷市中曾根	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	1	畦畔、その他(ブチヒゲカメムシ2)	
4年	7月14日	行田市前谷	26	44	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	74	8	畦畔、オヒシバ(60cm)
4年	7月13日	加須市妻倉	0	3	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	9	7	畦畔、メヒシバ(45cm)主体、イヌムギ、エノコログサ
4年	7月13日	加須市大越	2	31	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34	10	畦畔、オヒシバ(42cm)
4年	7月14日	幸手市神扇	43	4	25	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	75	—	農道脇水路法面、イタリアンライグラスとエノコログサ(60~70cm)主体
4年	7月14日	春日部市樋籠	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	水路、ヨシ(約2m)主体
4年	7月14日	吉川市中井	6	20	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	7	畦畔、メヒシバ(20~30cm)主体
	合計	調査地点数:17	107	240	30	41	0	0	1	13	0	1	1	1	2	2	439	154	発生地点率 15/17地点 88.2%
	平均	1地点あたり頭数	6.3	14.1	1.8	2.4	0.0	0.0	0.1	0.8	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	25.8	9.1	

過去のデータ

調査年月日	調査地点/種類	アカヒゲホソミドリカスミカメ		アサスジカスミカメ		クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		シラホシカメムシ		トゲシラホシカメムシ		その他		合計 頭	発生地 点率 %	備考 (調査地点のうち斑点米カメムシの発生地点数)	
		幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫				
24年	7月上中旬	21調査地点	120	179	25	147	0	2	2	13	0	0	0	1	0	0	489	95.2%	発生地点 20/21地点
		1地点あたり平均	5.7	8.5	1.2	7.0	0.0	0.1	0.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.3		多発が懸念されるため、基準日を0701に繰り上げた調査
25年	7月上中旬	20調査地点	310	507	38	238	0	0	2	43	1	1	0	0	0	8	1,148	95.0%	発生地点 19/20地点
		1地点あたり平均	15.5	25.4	1.9	11.9	0.0	0.0	0.1	2.2	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	57.4		平成25年7月19日に、平成25年度病害虫発生予察注意報第3号「イネの斑点米カメムシ類」を公表
26年	7月上中旬	18調査地点	304	343	107	37	0	0	2	13	1	2	0	1	1	9	820	94.4%	発生地点 17/18地点
		1地点あたり平均	16.9	19.1	5.9	2.1	0.0	0.0	0.1	0.7	0.1	0.1	0.0	0.1	0.1	0.5	45.6		平成26年6月30日に、平成26年度病害虫発生予察注意報第4号「斑点米カメムシ類」を公表
27年	7月上中旬	18調査地点	43	135	3	12	0	0	0	11	10	2	0	0	0	9	225	77.8%	発生地点 14/18地点
		1地点あたり平均	2.4	7.5	0.2	0.7	0.0	0.0	0.0	0.6	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.5	12.5		-
28年	7月上中旬	15調査地点	8	32	1	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	44	73.3%	発生地点 11/15地点
		1地点あたり平均	0.5	2.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9		-
29年	7月上中旬	22調査地点	17	64	0	0	0	0	2	6	0	0	0	1	9	1	100	77.2%	発生地点 17/22地点
		1地点あたり平均	0.8	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	4.5		平成29年7月3日に、平成29年度病害虫発生予察注意報第1号「斑点米カメムシ類(特に、アカヒゲホソミドリカスミカメ、アサスジカスミカメ)」を公表
30年	7月上中旬	17調査地点	31	97	1	12	0	1	0	4	0	0	0	2	0	0	148	58.8%	発生地点 10/17地点
		1地点あたり平均	1.8	5.7	0.1	0.7	0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	8.7		-
元年	7月上中旬 (令和)	17調査地点	200	210	0	1	1	1	0	19	10	1	3	0	0	0	445	82.4%	発生地点 14/17地点
		1地点あたり平均	11.8	12.4	0.0	0.1	0.1	0.0	1.1	0.6	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	26.2		-
2年	7月上中旬 (令和)	17調査地点	52	94	9	14	0	11	1	13	0	1	0	1	0	14	210	100.0%	発生地点 17/17地点
		1地点あたり平均	3.1	5.5	0.5	0.8	0.0	0.6	0.1	0.8	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.8	12.4		-
3年	7月上中旬 (令和)	17調査地点	21	87	0	12	0	2	3	27	0	1	0	1	0	0	154	100.0%	発生地点 17/17地点
		1地点あたり平均	1.2	5.1	0.0	0.7	0.0	0.1	0.2	1.6	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	9.1		-
平年		1地点あたり平均	6.0	9.4	1.0	2.4	0.0	0.1	0.2	0.8	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	20.2	85.4%	

(シ) ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果 (2月)

病害虫調査データ

ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率調査結果

令和5年2月3日
埼玉県病害虫防除所

病害虫防除所では、イネ縞葉枯病の発生量を予測するため、ヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を調査しています。

今年度の調査結果は、保毒虫率が過去10年で最も低くなっています。ただし、5月下旬以降の移植が主体の地域の保毒虫率は昨年よりやや高かったほか、コシヒカリ、キヌヒカリ等のイネ縞葉枯病感受性品種作付ほ場の周辺では保毒虫率が少し高い傾向が見られました。イネ縞葉枯病は移植後から幼穂形成期までに感染します。育苗箱施薬剤等を用いた感染前の早めの予防対策を実施してください。

1 調査方法

令和4年11月に、県内25か所の水田周辺でヒメトビウンカ幼虫(写真1)をサンプリング(100頭程度/1か所)し、ELISA法(図1)により保毒虫を判定し、イネ縞葉枯ウイルス保毒虫率を算出した。



写真1 ヒメトビウンカ幼虫
(体長2mm)

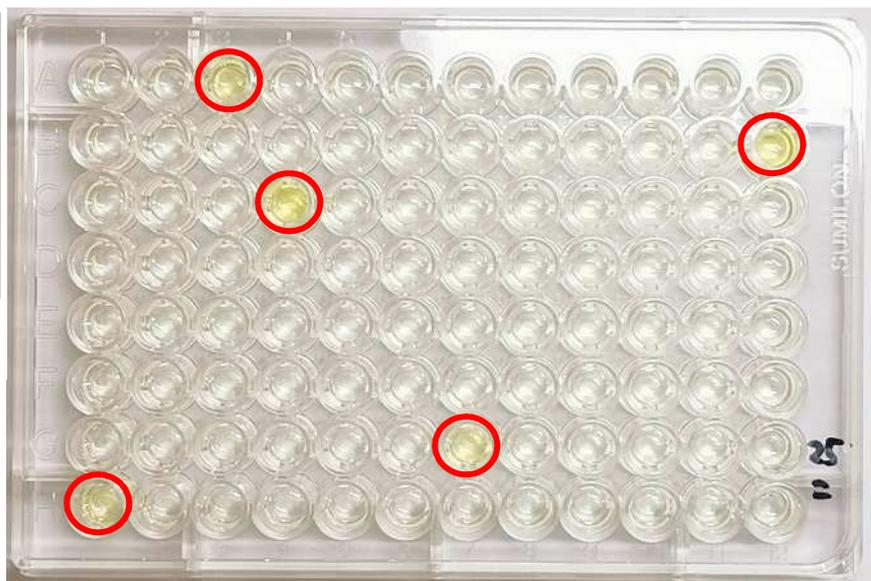


図1 ELISA法による保毒虫判定
ウイルス有り：黄色(○内)、ウイルス無し：無色

2 調査結果の概要

令和4年度のヒメトビウンカ幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率は、平均で2.7%と過去10年で最も低くなった(図2)。ただし、保毒虫率0.0%の調査地点は2か所と昨年(4か所)より減少しており、特に5月下旬以降の移植が主体の地域では全調査地点で保毒虫率が1.0%以上となった(表1)。

昨年は移植期による保毒虫率の差が見られたが、本年は5月中旬までの移植が主体の地域の平均保毒虫率が2.8%(昨年5.5%)、5月下旬以降の移植が主体の地域が2.6%(昨年1.8%)で有意差はなく(表1)、5月下旬以降の移植が主体の地域の平均保毒虫率は昨年よりやや高くなった。

さらに、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」等のイネ縞葉枯病感受性品種では「彩のかがやき」「彩のきずな」等のイネ縞葉枯病抵抗性品種に比べ保毒虫率が若干高い傾向が見られ、平年値(5.8%)を超える調査地点が3か所存在した。

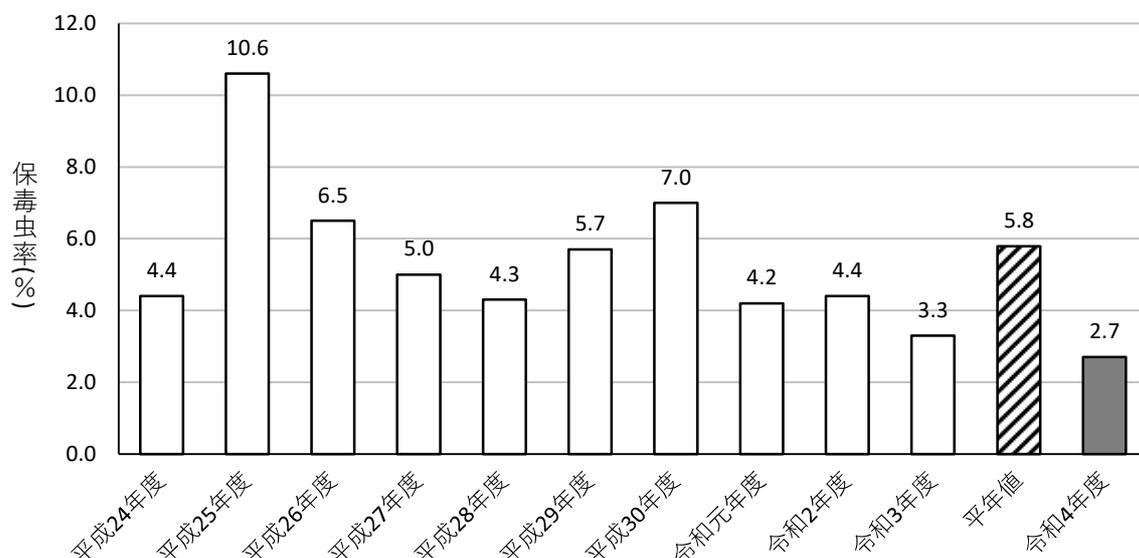


図2 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率の推移

表1 ヒメトビウンカのイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率(令和4年度)

5月中旬までの移植地域		5月下旬以降の移植地域	
採集地点	保毒虫率(%)	採集地点	保毒虫率(%)
さいたま市桜区昭和	8.3	坂戸市紺屋	1.0
鴻巣市屈巢	1.0	小川町下横田	2.1
富士見市南畑	1.0	川島町平沼	4.2
川越市古谷本郷	4.2	吉見町久保田	4.2
熊谷市中曾根	6.3	滑川町山田	2.1
加須市大越	0.0	秩父市小柱	1.0
加須市柏戸	2.1	本庄市児玉町吉田林	4.2
春日部市樋籠	0.0	美里町関	1.0
幸手市平野	2.1	上里町長浜	3.1
白岡市野牛	3.1	熊谷市小泉	3.1
		熊谷市樋春	1.0
		行田市前谷	1.0
		行田市下池守	2.1
		加須市下谷	2.1
		久喜市菖蒲町台	6.3
地域平均(10地点)	2.8	地域平均(15地点)	2.6
採集地点数	25	平均保毒虫率(%)	2.7

(ス) 農業技術研究センター 県予察ほ場 (玉井試験場) 調査結果 (6~9月)

a ほ場内見取り調査(%)

(a) 5月中旬移植「コシヒカリ」

調査月		6月			7月			8月			9月		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
葉いもち	発病株率%	0.0	0.3	0.0	1.0	2.0	3.6	0.7	0.0	0.1	-	-	-
穂いもち	発病株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	6.3	1.9	14.4	40.0	-
紋枯病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.7	0.0	5.4	15.7	18.6	24.6
ばか苗病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
縞葉枯病	発病株率%	1.7	0.7	1.4	7.0	20.0	26.1	22.3	49.0	61.5	22.3	49.0	64.0
コマイチュウ (第1世代幼虫)	食害株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イチモンジセリ	食害株率%	0.7	3.0	2.3	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	-
イネアオムシ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-
コブノメイガ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-
イソメモグリハエ	食害株率%	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネミズゾウムシ	食害株率%	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イトヨリス	食害株率%	0.0	0.0	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(b) 5月中旬移植「彩のかがやき」

調査月		6月			7月			8月			9月		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
葉いもち	発病株率%	0.7	0.0	0.0	1.3	1.0	1.0	0.3	0.0	0.3	-	-	-
穂いもち	発病株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	18.8	53.3	11.6
紋枯病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	9.0	7.7	11.3	23.3	14.7	26.0	75.3	23.7	34.2
ばか苗病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
縞葉枯病	発病株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.3	0.0	0.0	0.4
コマイチュウ (第1世代幼虫)	食害株率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イチモンジセリ	食害株率%	0.3	6.0	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
イネアオムシ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	-	0.1	-	-	-
コブノメイガ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
イソメモグリハエ	食害株率%	1.7	0.0	0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネミズゾウムシ	食害株率%	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イトヨリス	食害株率%	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサキリ類	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.1

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(c) 6月下旬移植「キヌヒカリ」

調査月		6月			7月			8月			9月		
		2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年	2022年	2021年	平年
葉いもち	発病株率%	-	-	-	0.0	6.3	4.9	3.7	17.7	8.1	-	-	-
穂いもち	発病株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	47.8	60.0	24.9
紋枯病	発病株率%	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	1.9	34.7	10.7	31.1
ばか苗病	発病株率%	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
縞葉枯病	発病株率%	-	-	-	2.3	0.3	1.7	7.3	3.0	23.6	20.3	13.0	28.3
コマイチュウ (第1世代幼虫)	食害株率%	-	-	-	0.0	0.0	0.0	-	-	-	-	-	-
イチモンジセリ	食害株率%	-	-	-	0.3	0.7	0.4	29.3	5.0	5.2	0.0	0.0	0.1
イネアオムシ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.2	-	-	-
コブノメイガ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	2.0
イソメモグリハエ	食害株率%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
イネミズゾウムシ	食害株率%	-	-	-	0.0	0.0	5.4	-	-	-	-	-	-
イトヨリス	食害株率%	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クサキリ類	食害株率%	-	-	-	-	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	0.1

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

b すくい取り調査(20回振)でのウンカ・ヨコバイ類等の捕獲数

(a) 5月中旬移植「コンヒカリ」

調査月	6月				7月				8月				9月			
	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)
ヒメトビウンカ	25.7	0.0	25.7	35.0	10.3	3.3	13.7	77.3	69.3	168.0	237.3	510.0	170.7	296.0	466.7	443.0
ツマグロヨコバイ	0.3	0.0	0.3	2.7	1.7	1.0	2.7	10.3	10.7	69.3	80.0	176.6	194.7	1,624.0	1,818.7	519.4
セジロウンカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	11.8
トビロウンカ	0.0	0.0	0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
アカヒゲホソミドリカスミカメ			4.3	3.8			0.3	0.2			0.0	0.1			0.0	0.0

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(b) 5月中旬移植「彩のかがやき」

調査月	6月				7月				8月				9月			
	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)
ヒメトビウンカ	43.0	0.0	43.0	44.7	13.7	11.0	24.7	77.7	38.3	23.0	61.3	513.9	133.3	200.0	333.3	480.7
ツマグロヨコバイ	0.7	0.0	0.7	1.4	1.0	1.0	2.0	2.8	9.0	11.0	71.3	12.7	64.0	877.3	941.3	192.0
セジロウンカ	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	1.3	0.0	3.0	3.0	5.7	0.0	0.0	0.0	14.8
トビロウンカ			0.0	0.0			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
アカヒゲホソミドリカスミカメ			5.3	3.9			0.0	0.2			0.0	0.5			0.0	0.2

平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

(c) 6月下旬移植「キヌヒカリ」

調査月	6月				7月				8月				9月			
	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)	成虫	幼虫	計	平年(計)
ヒメトビウンカ	-	-	-	-	10.0	5.0	14.7	23.5	36.3	16.7	53.0	364.9	306.7	664.0	970.7	583.7
ツマグロヨコバイ	-	-	-	-	1.7	1.0	2.7	4.3	11.3	8.0	19.3	81.0	157.3	3,053.3	3,210.7	2,541.0
セジロウンカ	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.5	3.3	4.3	7.7	21.3	2.7	8.0	10.7	85.2
トビロウンカ	-	-	-	-			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
アカヒゲホソミドリカスミカメ	-	-	-	-			1.0	2.2			0.3	0.9			0.0	0.3

-は未調査

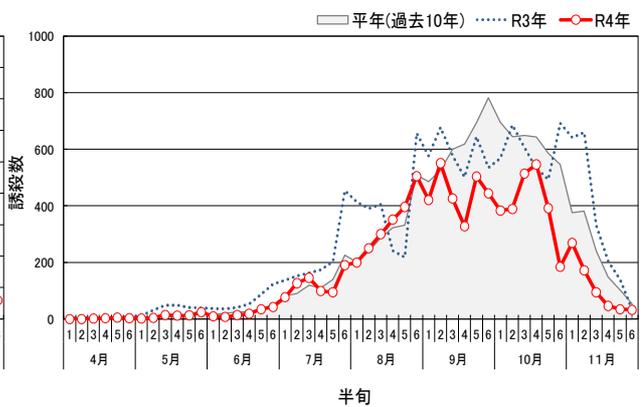
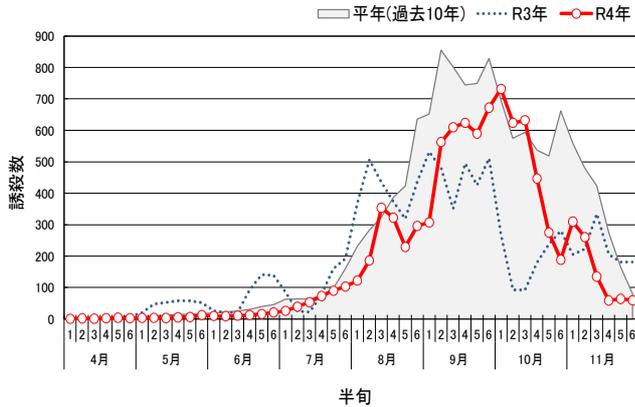
平年は、過去10年の平均。ただし、欠測年は除く。

イ 野菜等

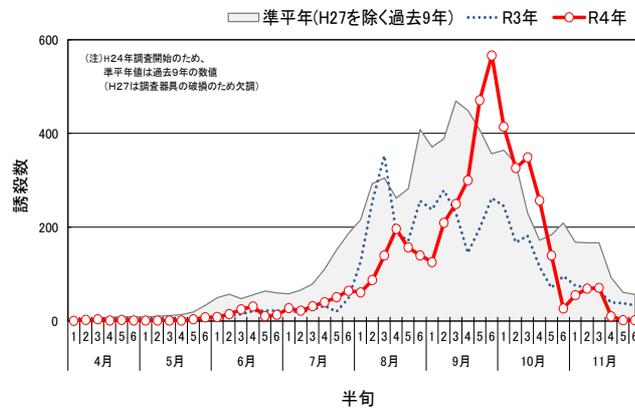
(ア) ハスモンヨトウのフェロモントラップ調査 (4～11月)

対象作物:大豆(7月以降) 調査地点:熊谷市榎春

対象作物:ブロッコリー 調査地点:深谷市山河



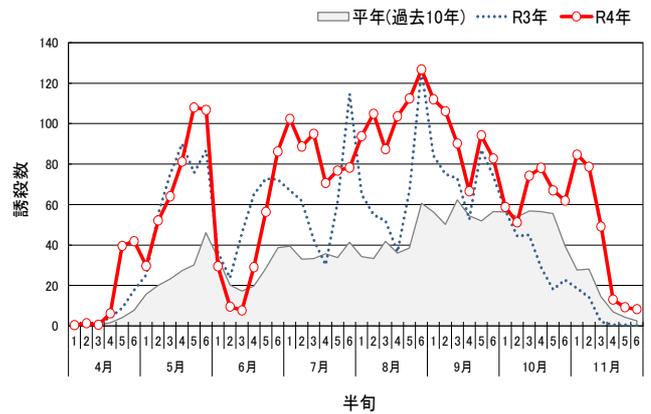
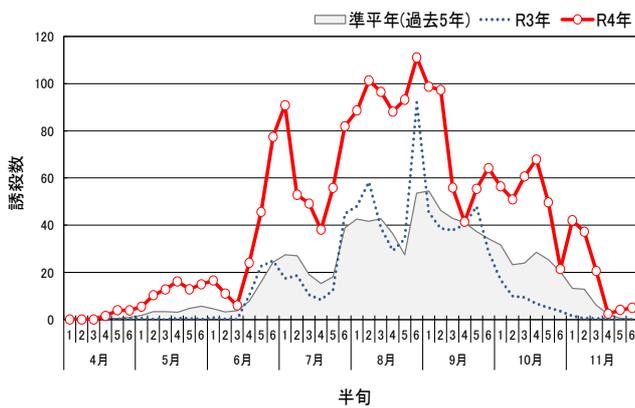
対象作物:いちご、ハウス花き 調査地点:久喜市菖蒲町小林



(イ) オオタバコガのフェロモントラップ調査 (4～11月)

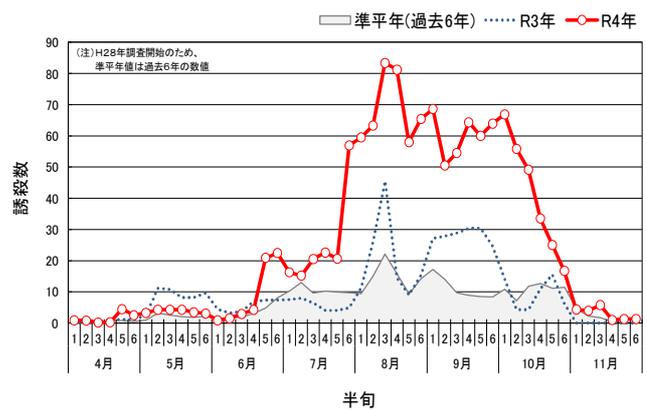
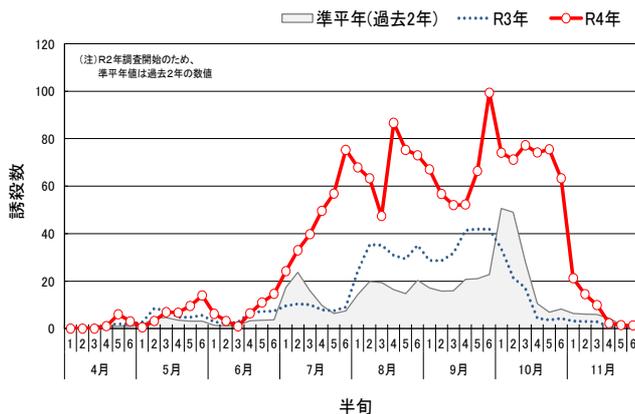
対象作物:露地なす 調査地点:本庄市小平

対象作物:露地野菜 調査地点:深谷市山河



対象作物:露地なす 調査地点:越谷市中島

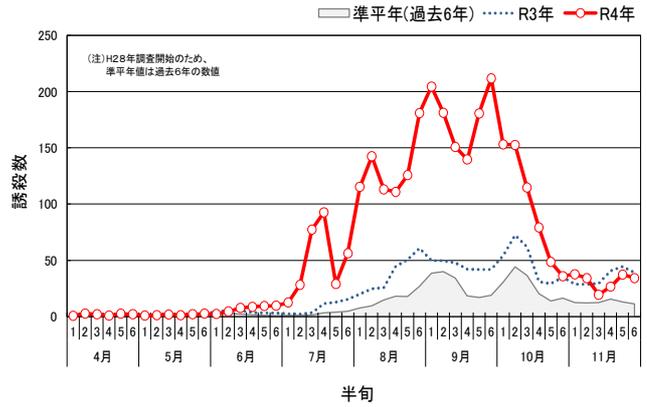
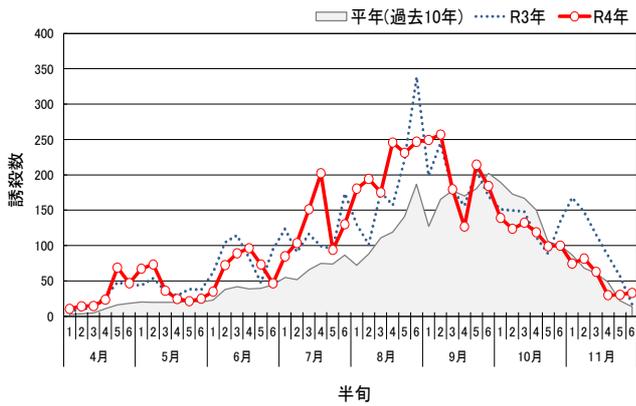
対象作物:露地なす 調査地点:杉戸町大塚



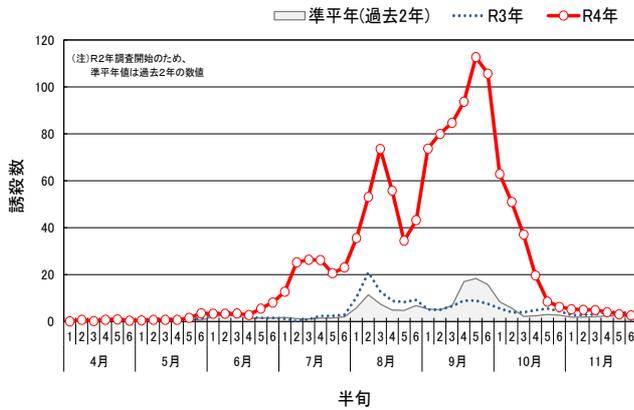
(ウ) シロイチモジヨトウのフェロモントラップ調査 (4~11月)

対象作物:ねぎ 調査地点:深谷市新戒

対象作物:ねぎ 調査地点:越谷市中島



対象作物:ねぎ 調査地点:杉戸町大塚

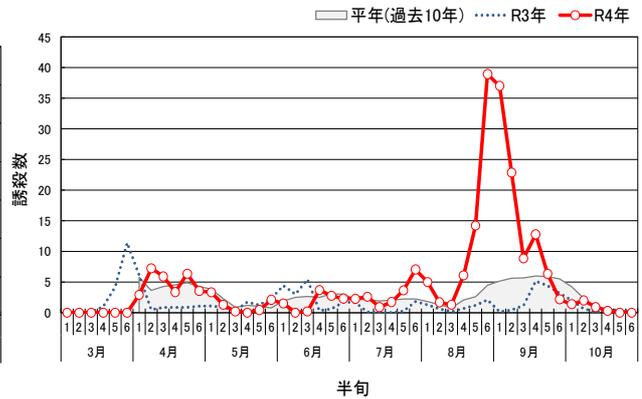
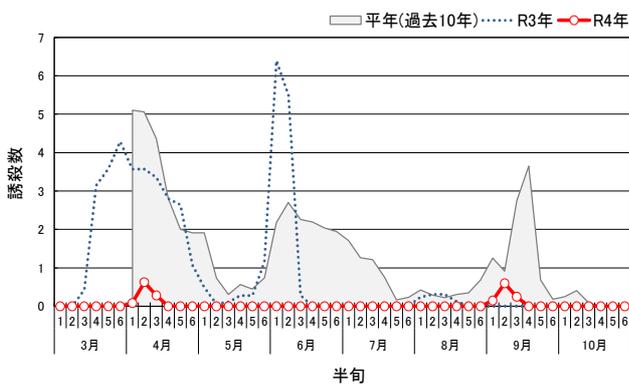


ウ 果樹

(ア) ナシヒメシンクイのフェロモントラップ調査 (3~10月)

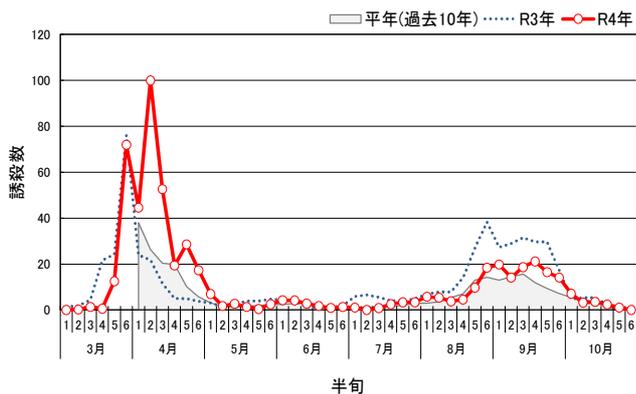
対象作物:なし 調査地点:鴻巣市常光

対象作物:なし 調査地点:上里町長浜

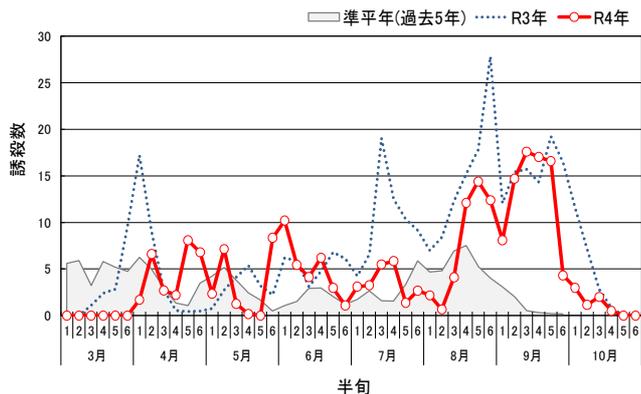


対象作物:なし 調査地点:加須市鴻基

対象作物:なし 調査地点:春日部市内牧



対象作物:なし 調査地点:久喜試験場



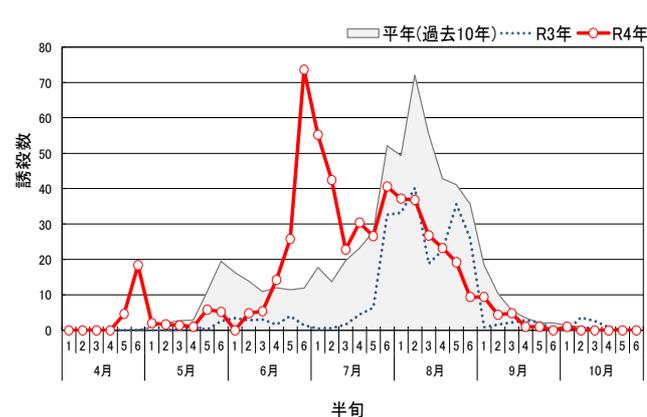
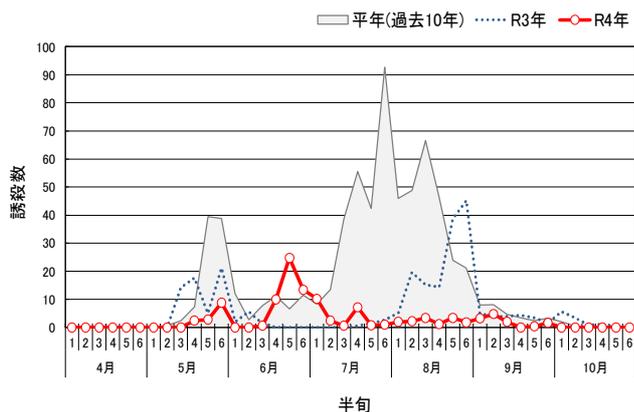
(イ) 果樹カメムシの予察灯調査 (4~10月)

a 主要な果樹カメムシ (4種*合計)

※チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ、ツヤアオカメムシ、アオクサカメムシ

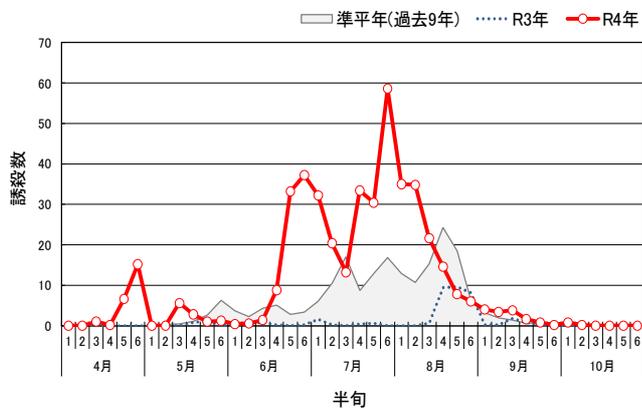
対象作物:なし 調査地点:上里町長浜

対象作物:なし 調査地点:春日部市内牧



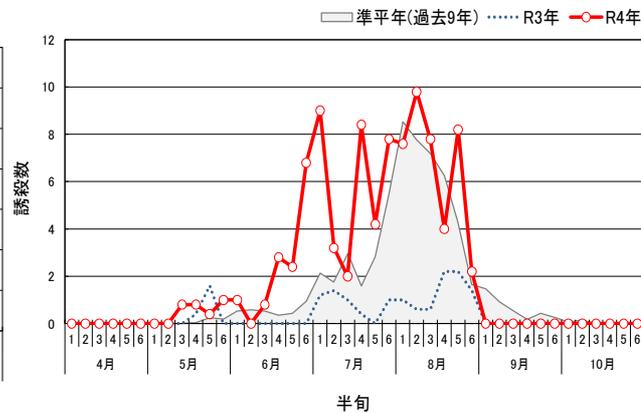
b チャバネアオカメムシ

対象作物:なし 調査地点:久喜試験場



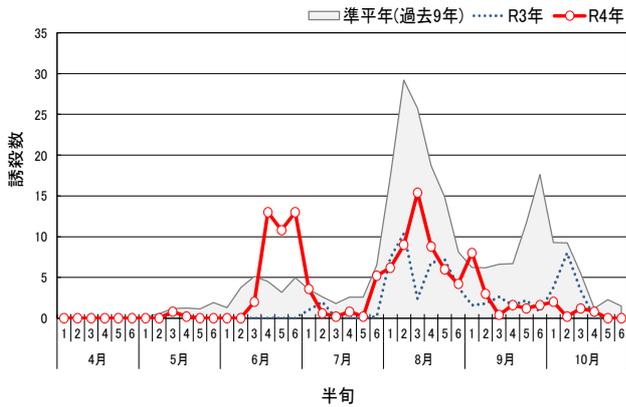
c クサギカメムシ

対象作物:なし 調査地点:久喜試験場



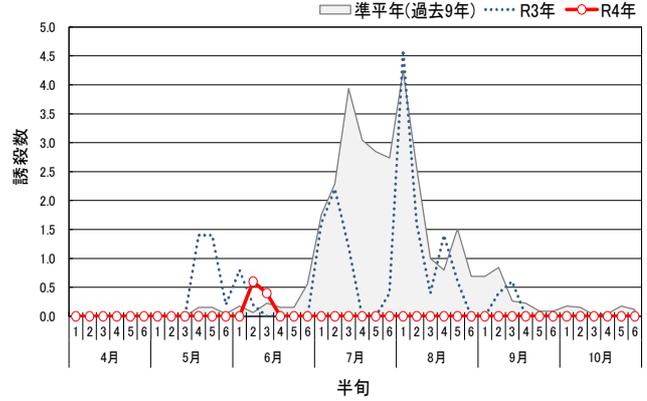
d ツヤアオカメムシ

対象作物:なし 調査地点:久喜試験場



e アオクサカメムシ

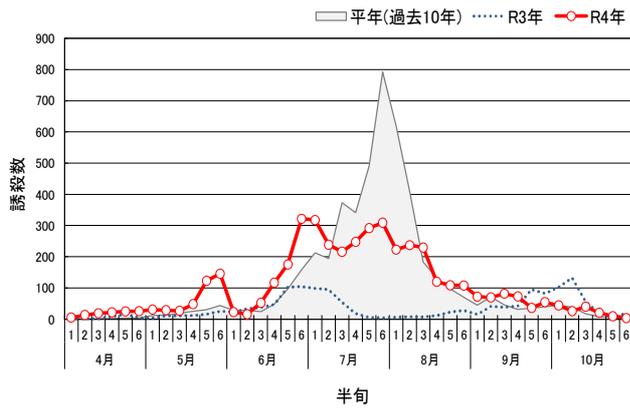
対象作物:なし 調査地点:久喜試験場



(ウ) 果樹カメムシのフェロモントラップ調査 (4~10月)

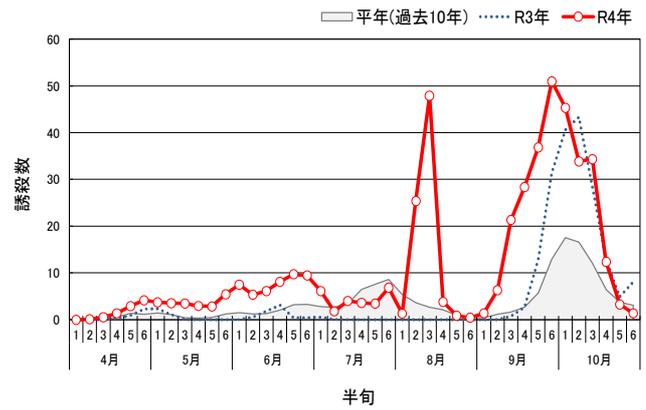
a チャバネアオカメムシ

対象作物:ヒノキ 調査地点:寄居町鉢形



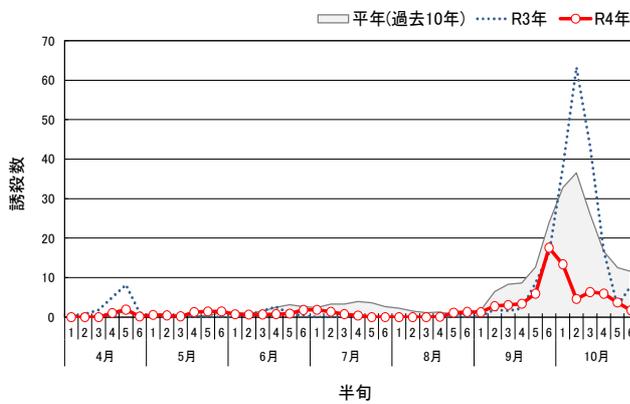
b クサギカメムシ

対象作物:ヒノキ 調査地点:寄居町鉢形



c ツヤアオカメムシ

対象作物:ヒノキ 調査地点:寄居町鉢形



(エ) 果樹カメムシ類の越冬密度調査結果 (3月)

果樹カメムシ類の越冬密度調査結果について

令和5年3月2日
埼玉県病害虫防除所

ナシ、モモ、カンキツなどの果樹を加害する果樹カメムシ類の防除の参考とするために、チャバネアオカメムシなどの越冬密度調査を行いました。

調査の結果、チャバネアオカメムシ（越冬成虫）の捕獲数は平年並でしたが、確認地点率は平年を上回りました。

果樹カメムシ類は、地域によって越冬密度が異なり、局所的に多く飛来することがあります。

また、気象条件によっては発生時期が早まることがあるため、今後防除所が発表する予察灯、フェロモントラップの誘殺数をよく確認し、初期飛来に注意して適切に防除してください。

1 調査時期

令和5年2月1日～2月22日

2 調査地点

8地点 (表参照)

3 調査方法

- (1) 雑木林の南斜面から、1地点につき3か所 (各1㎡) の落葉を採取。
- (2) 採取した落葉を温室内 (25℃加温) に2週間以上静置し体色が緑化したチャバネアオカメムシ等の成虫数を調査。

4 結果

1地点あたりの平均成虫数は0.63頭で、過去10年で5番目に高い数値となり、確認地点率は38%で、過去10年で4番目に高い数値となった(下表、下図)。



チャバネアオカメムシの成虫
(体長10～12ミリメートル)

表 果樹カメムシ類の越冬成虫数

単位:頭		
採取地点	チャバネアオカメムシ	その他のカメムシ
東松山市松山	2	
北本市荒井	0	
寄居町鉢形	0	
神川町池田	0	
加須市種足	1	その他 5
蓮田市高虫	2	クモヘリカメムシ 1
春日部市内牧	0	クモヘリカメムシ 1、その他 11
久喜市清久	0	クモヘリカメムシ 1、イネカメムシ 1、その他 3
計	5	—
平均越冬虫数 (1地点あたり)	0.63	(過去10年の平均虫数 0.68)
確認地点率	38%	(過去10年の平均地点率 34%)

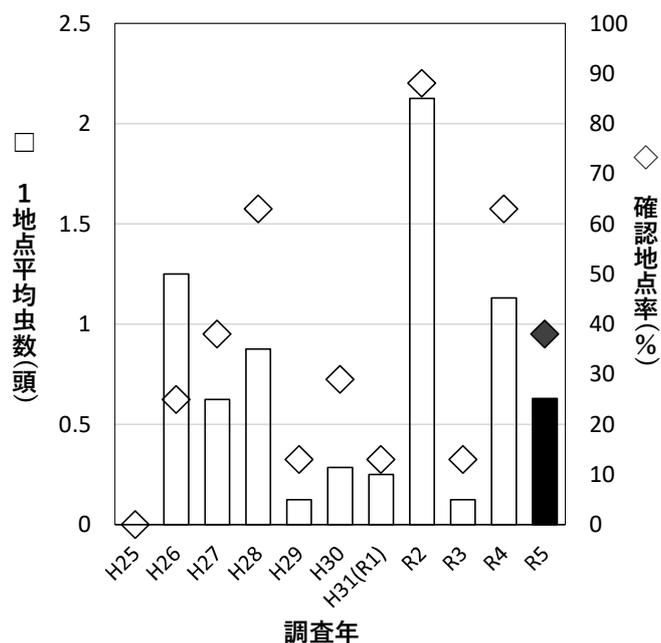
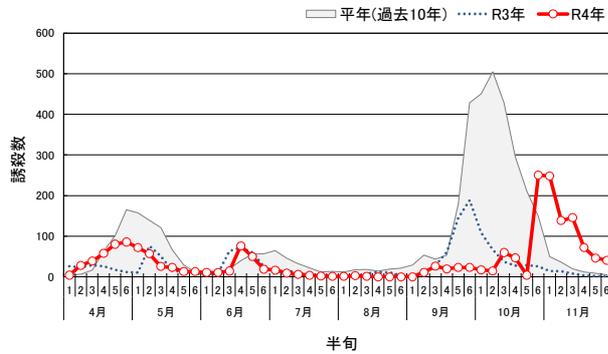


図 チャバネアオカメムシの越冬成虫調査結果

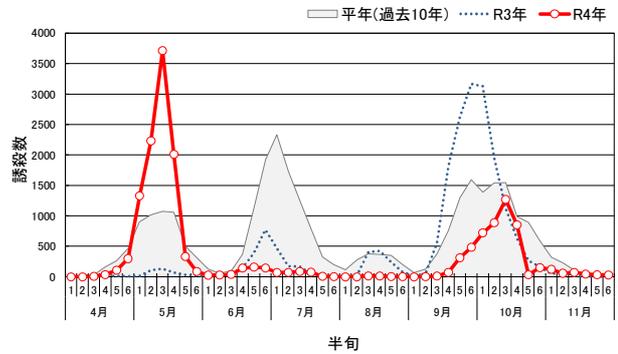
エ 茶

(ア) チャハマキのフェロモントラップ調査 (4～11月)

対象作物: 茶 調査地点: 所沢市下富

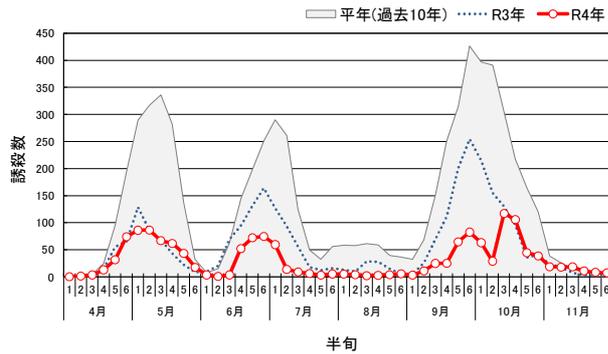


対象作物: 茶 調査地点: 入間市根岸

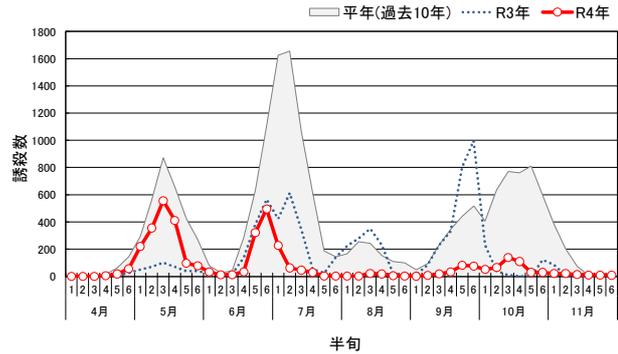


(イ) チャノコカクモンハマキのフェロモントラップ調査 (4～11月)

対象作物: 茶 調査地点: 所沢市下富

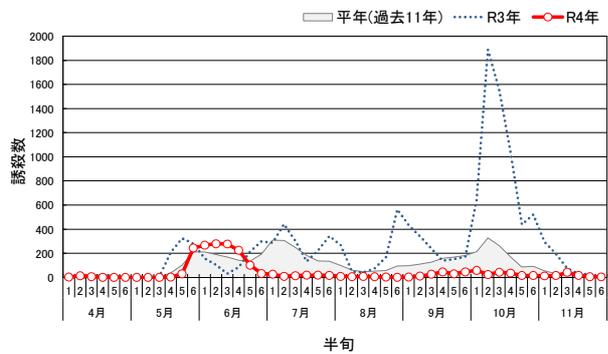


対象作物: 茶 調査地点: 入間市根岸

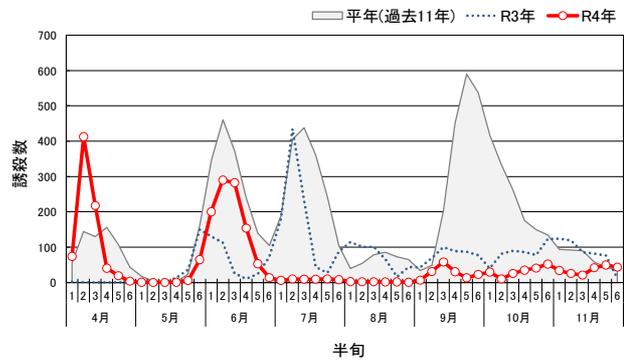


(ウ) チャノホソガのフェロモントラップ調査 (4～11月)

対象作物: 茶 調査地点: 所沢市下富

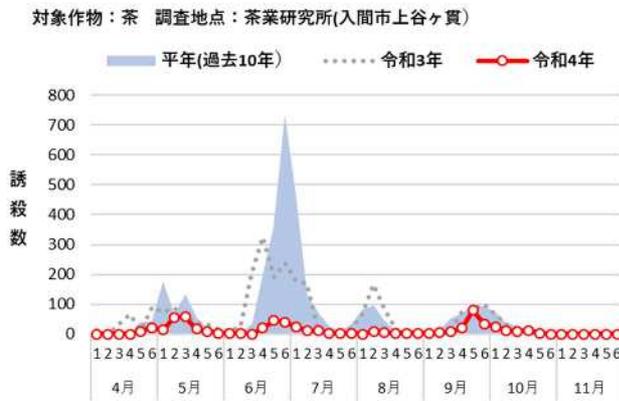


対象作物: 茶 調査地点: 入間市根岸

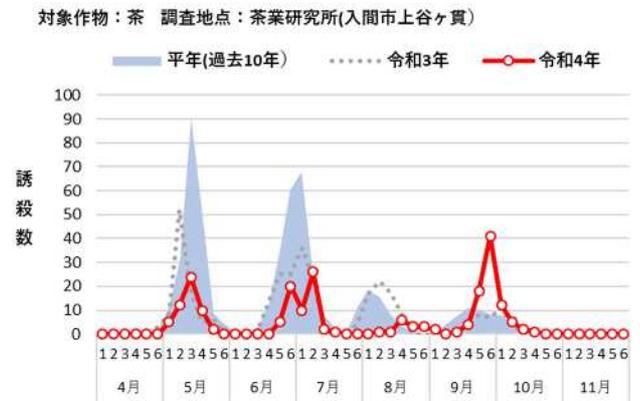


(エ) 茶業研究所 県予察ほ場調査結果 (4~3月)

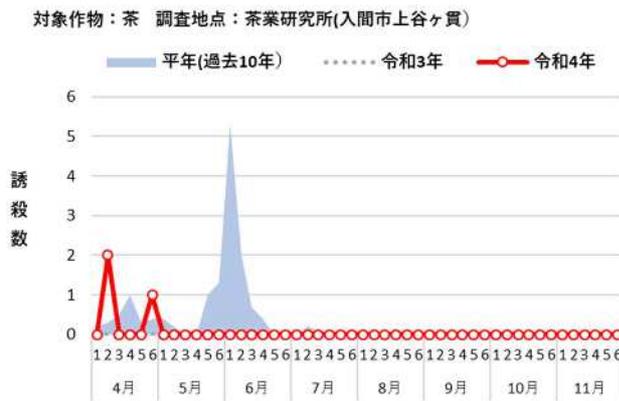
a 予察灯へのチャハマキの誘殺数



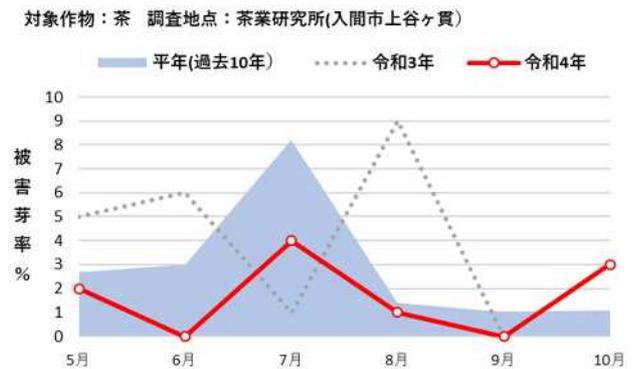
b 予察灯へのチャノコカクモンハマキの誘殺数



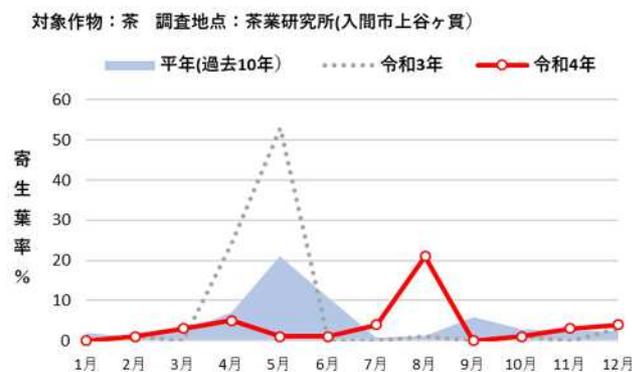
c 予察灯へのチャノホソガの誘殺数



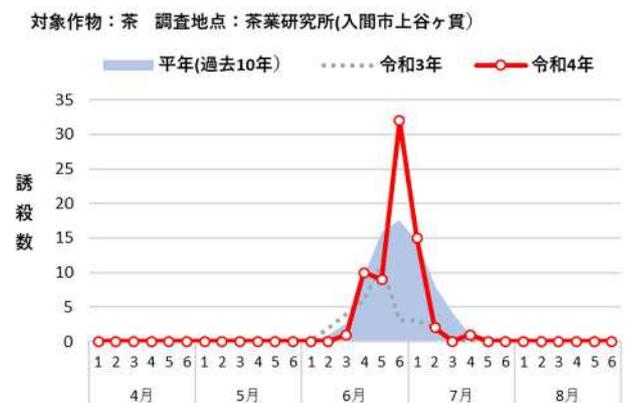
d ツマグロアオカスミカメ被害芽率



e カンザワハダニの発生推移



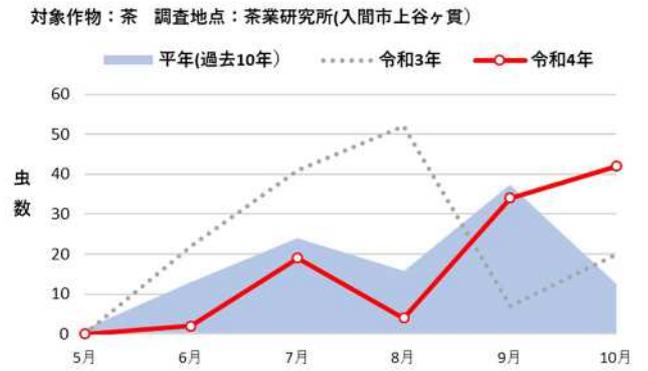
f 予察灯へのナガチャコガネ成虫の発生推移



g チャノキイロアザミウマの発生推移



h チャノミドリヒメヨコバイの発生推移



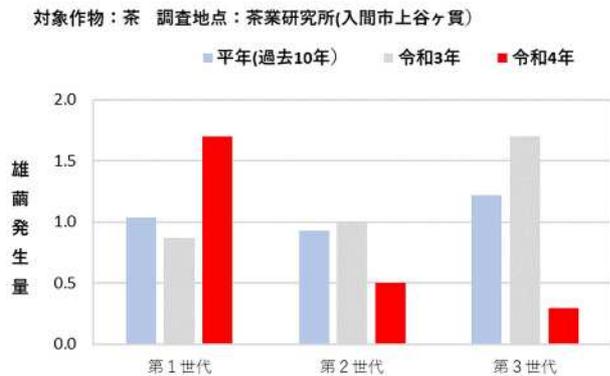
i 炭疽病の発生推移



j 輪斑病の発生推移



k クワシロカイガラムシの発生推移
(30株あたりの平均)



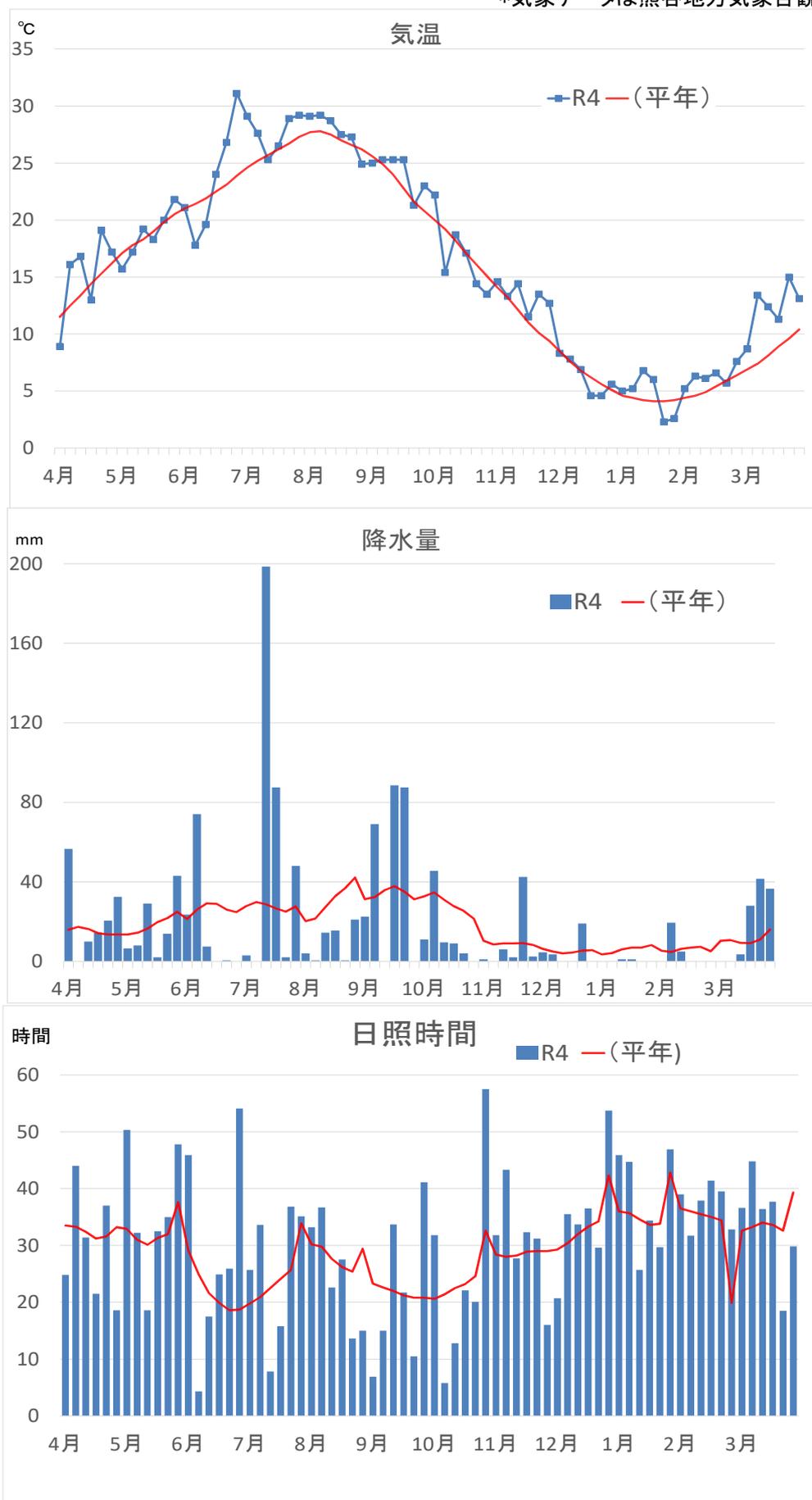
l チャトゲコナジラミの発生推移



(3) その他

ア 令和4年度熊谷の気象データ

*気象データは熊谷地方気象台観測値を使用



イ 無人ヘリコプターによる防除実績

年次別防除実績の推移（平成24年までは【その他：肥料、除草剤など】を除く）

（資料提供：一般社団法人埼玉県植物防疫協会）

（単位：ha）

	年度	平成 19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年
麦	市町村数	13	17	19	16	17	17	17	16
	実施面積	841.0	2064.5	2620.6	2574.1	2472.0	2511.1	2722.2	2825.5
水稲	市町村数	8	9	11	11	10	8	10	15
	実施面積	1405.6	1714.2	2133.9	2409.3	2372.1	2513.6	3317.0	3030.3
大豆	市町村数	10	14	13	10	7	5	6	3
	実施面積	272.4	407.0	395.0	304.9	272.9	250.0	251.5	201.5
その他	市町村数	—	—	—	—	—	—	3	8
	実施面積	—	—	—	—	—	—	20.6	163.1
計	市町村数	31	40	43	37	34	30	36	41
	実施面積	2519.0	4185.7	5149.5	5288.3	5117.0	5274.7	6311.3	6220.4

（単位：ha）

	年度	27年	28年	29年	30年	令和元年	2年	3年	4年
麦	市町村数	17	19	17	14	17	17	14	15
	実施面積	2821.0	3174.3	2977.8	3194.6	3057.8	3275.2	3062.8	2976.8
水稲	市町村数	13	14	13	16	20	13	17	15
	実施面積	3549.1	3541.4	3561.8	3913.5	3826.7	3958.8	3721.8	3588.2
大豆	市町村数	6	7	5	7	6	4	5	4
	実施面積	270.0	284.3	243.7	264.2	163.4	143.0	204.2	176.0
その他	市町村数	10	8	8	6	10	12	9	6
	実施面積	117.3	224.3	79.6	223.4	198.7	317.0	120.7	67.7
計	市町村数	46	48	43	43	26	23	25	23
	実施面積	6754.4	7224.3	6952.9	7595.7	7246.6	7694.0	7109.5	6808.7

*市町村数の計は平成19年～30年は「のべ市町村数」、令和元年以降は「実市町村数」とする。

ゴルフ場の害虫防除のための散布は、実施面積から除く。

平成22年実績として、甘藷1地区1.1haの実績がある。（別途）

「その他（ジャガイモ、肥料、除草剤、種子）」は、平成25年から記載。

ウ 過去の病害虫発生予察警報、注意報、特殊報発表状況

(ア) 警報

月 日	内 容
昭和 58 年 7 月 13 日	イネ縞葉枯病
昭和 59 年 6 月 22 日	イネ縞葉枯病
平成 5 年 8 月 20 日	イネいもち病 (穂いもち病)

(イ) 注意報及び特殊報

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
昭和 54	5. 29	イネ縞葉枯病、黒すじ萎縮病	7. 20	キュウリ黄化病、キクのサビダニ、 チューリップのサビダニ
	7. 10	ナシのハダニ類		
	8. 8	ダイズ、野菜のハスモンヨトウ	9. 11	イチゴ炭そ病
55	4. 30	チャのサンカクハマキ		
	8. 1	イネいもち病 (穂いもち)		
	9. 9	キュウリ斑点細菌病、べと病、ナス 褐色腐敗病、トマト疫病、ニンジン 黒葉枯病、ネギ黒斑病、さび病、露 地野菜軟腐病		
57	8. 13	イネいもち病 (穂いもち)	3. 4	イチゴ疫病、クリのヨシノコブガ、 シクラメンホコリダニ
58	5. 23	イネミズゾウムシ		
	6. 3	イネ縞葉枯病		
59	2. 16	ムギダニ	7. 2	ニンジン斑点細菌病、タマネギ萎黄 病、クワイ茎腐病
	4. 13	ムギアカタマバエ		
	6. 14	イネ縞葉枯病		
60	3. 19	キュウリ、ナス、トマト及びイチゴの 灰色かび病		
	4. 17	ムギアカタマバエ		
	5. 10	イネミズゾウムシ		
	8. 26	ダイコン及びハクサイウイルス病		
	8. 31	セジロウンカ		
61	4. 30	ムギアカタマバエ	1. 17	ニンジン菌核病、ダイコンバーティ シリウム黒点病
	5. 12	イネミズゾウムシ		
	7. 21	セジロウンカ	3. 28	チャ輪斑病
	8. 21	ニカメイチュウ第2世代幼虫	7. 9	ミナミキイロアザミウマ
62	5. 7	イネミズゾウムシ	3. 11	レタスビッグベイン病
	5. 11	野菜のアブラムシ類及びウイルス病		
	6. 17	イネ縞葉枯病		
	8. 11	セジロウンカ		
63	5. 10	イネミズゾウムシ		
	8. 19	イネいもち病 (穂いもち)		

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
平成 元	8. 25	イネ白葉枯病	8. 25	イネ白葉枯病
2	5. 8 8. 1	ナシ黒星病 セジロウンカ	5. 8 9. 5	タバココナジラミ ミカンキイロアザミウマ
3	7. 12 8. 7 8. 7	ナシのカメムシ類 ニカメイチュウ第2世代 セジロウンカ	6. 4	カキクダアザミウマ
4	6. 19	ナシ、カンキツ類のカメムシ類	7. 29 12. 8	ヨメナスジハモグリバエ カラシコエのさび病(仮称)
5	3. 9 8. 5	チャのカンザワハダニ イネいもち病(葉いもち、穂いもち)	3. 9	マメハモグリバエ
6	6. 17	イネいもち病(葉いもち)	10. 7	トマトサビダニ
7	7. 21	イネいもち病(葉いもち)		
8	8. 6	ナシのカメムシ類	8. 26 9. 19	シロイチモジヨトウ オオタバコガ
9	7. 7 8. 1	ネギ等のシロイチモジヨトウ ナス等のオオタバコガ	6. 23 8. 1	トマト黄化壊疽ウイルス(TSWV) カボチャ台キュウリ立枯病
10	5. 14 6. 11 9. 30	ナシの疫病、黒星病 ナシのカメムシ類 チャのウスミドリメクラガメ		
11	9. 28	ダイズ、野菜のハスモンヨトウ		
12	9. 7	ダイズ、野菜のハスモンヨトウ		
13	6. 11 8. 16	ナシのカメムシ類 イネの斑点米カメムシ類	2. 1	イチジク株枯病
14			1. 23 5. 13 9. 17	トマトハモグリバエ アルファルファタコゾウムシ ルイスハダニ
15	8. 13	イネいもち病(穂いもち)	2. 10	インパチェンスえそ斑紋ウイルス (INSV)
16			6. 10	IYSV(Iris yellow spot virus) によるトルコギキョウ及びユーチャ リスの病害
17	6. 9 8. 4	キュウリ黄化えそ病(MYSV) 水稻のフタオビコヤガ	2. 17 5. 19 9. 16	トマト黄化葉巻病(TYLCV) キュウリ黄化えそ病(MYSV) クワシロカイガラムシ
18	6. 2 6. 27 7. 24 8. 2 11. 2	ナシのカメムシ類 イネいもち病(葉いもち、穂いもち) イネいもち病(葉いもち、穂いもち) フタオビコヤガ(イネアオムシ) トマト黄化葉巻病(TYLCV)	4. 11 10. 10 11. 15 12. 5	タバココナジラミバイオタイプQ フタスジヒメハムシによるダイズ被 害 ユリのイチゴセンチュウ クリバネアザミウマ(ミョウガ)
19	3. 27 7. 26 8. 13 9. 20	チャのカンザワハダニ イネいもち病(葉いもち、穂いもち) フタオビコヤガ(イネアオムシ) ハスモンヨトウ	3. 9 7. 26 8. 30 10. 4 11. 5	クロスジコバネアブラムシ(ミョウ ガ) IYSV(Iris yellow spot virus)によ るネギの病害 カキノヒメヨコバイ(カキ) アワダチソウグンバイ(キク科) プラタナスグンバイ(プラタナス)

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
20	4. 7 5. 1 6. 4 10. 2	チャのカンザワハダニ ナシヒメシンクイ ナシ黒星病 チャハマキ	1. 16 3. 25 10. 30	ツマグロヒョウモン幼虫によるパン ジー等の被害 クロトンアザミウマ (モントレイ トスギ) キュウリ退緑黄化病 (CCYV:仮称)
21	5. 1 7. 29	ナシのナシヒメシンクイ イネいもち病(葉いもち、穂いもち)	11. 12	チャのミカントゲコナジラミ
22	6. 11 7. 8 8. 27	ナス、スイートコーンなどのオオタ バコガ フタオビコヤガ (イネアオムシ) 野菜類、花き類及びダイズのハスモ ンヨトウ	2. 9 3. 31 7. 23 12. 21 12. 22	ハウレンソウのハコベハナバエ ブロッコリー菌核病 ウメ輪紋ウイルス (plum pox virus) トルコギキョウ葉巻病 トマトすすかび病
23	7. 20 8. 3	斑点米カメムシ類(アカヒゲホミドリカスミ カメ、アカスジカスミカメ、ホリハリカメムシ、クモハリカメムシ) フタオビコヤガ(イネアオムシ)	7. 26 10. 26 12. 19	クロメンガタスズメによるトマト・ ナス等の被害 チャノキイロアザミウマによるナシ への寄生と被害 ムギ類黒節病
24	6. 5	ナシのカメムシ類 (チャバネカメムシ、ク ギカメムシ、ツヤカメムシ)	12. 6 1. 30	ネギ葉枯病菌による黄色斑紋症状の 発生について スモモ斑入果病について
25	5. 28 5. 31 7. 19 9. 2	チャノコカクモンハマキ ヒメトビウンカ (イネ縞葉枯病) 斑点米カメムシ類(アカヒゲホミドリカスミ カメ、アカスジカスミカメ、ホリハリカメムシ、クモハリカメムシ 他) ヒメトビウンカ (イネ縞葉枯病、イ ネ黒すじ萎縮病) ツバキ、サザンカ、サカキのチャトゲ コナジラミ		
26	4. 1 5. 23 6. 10 6. 30 3. 30	イネ縞葉枯病 (ヒメトビウンカ) イネ縞葉枯病 ナシのカメムシ類 (チャバネカメムシ他) 斑点米カメムシ類 イネ縞葉枯病		
27	7. 9 3. 28	イネいもち病 イネ縞葉枯病	10. 8	ヒサカキワタフキコナジラミによる チャへの被害について
28	7. 27	イネいもち病	6. 28	秋冬ネギ及び春ニンジンに発生した クロバネキノコバエ科の一種 (<i>Bradysia</i> sp.) について
29	7. 3	斑点米カメムシ類 (特に、アカヒゲ ホソミドリカスミカメ、アカスジカ スミカメ)	7. 25 7. 31	ナス黒点根腐病の発生について クビアカツヤカミキリの発生につい て
30	8. 8 8. 8	野菜類、花き類のオオタバコガ ネギのシロイチモジヨトウ	5. 30 5. 30 6. 7	トビイロシワアリについて オリーブアナアキゾウムシについて トマト黄化病について

年	月 日	注 意 報	月 日	特 殊 報
平成 31 令和 元	4. 23 5. 10 6. 3 7. 8	イネ縞葉枯病（ヒメトビウンカ） 茶、チャハマキ ナシ、果樹カメムシ類 茶、チャハマキ	10. 15	ネギハモグリバエの別系統の発生について
2	7. 28 9. 11	イネいもち病（葉いもち、穂いもち） ネギのシロイチモジヨトウ	7. 27 8. 24 10. 13	ミナミアオカメムシの発生について ツマジロクサヨトウの発生について <i>Singapore shinshana</i> (Matsumura) (和名なし) (ヨコバイ科の一種) の発生について
3	7. 7 8. 31	イネいもち病（葉いもち） ネギ、シロイチモジヨトウ	8. 3 10. 29 10. 29	サツマイモ基腐病の発生について サクセスキクイムシの発生について ヨツモンカメノコハムシの発生について
4	7. 11 7. 27 7. 27 9. 8	ネギ、さび病 野菜類、花き類、オオタバコガ ネギ、シロイチモジヨトウ 野菜類、花き類、大豆 オオタバコガ	10. 21	タバコノミハムシの発生について